

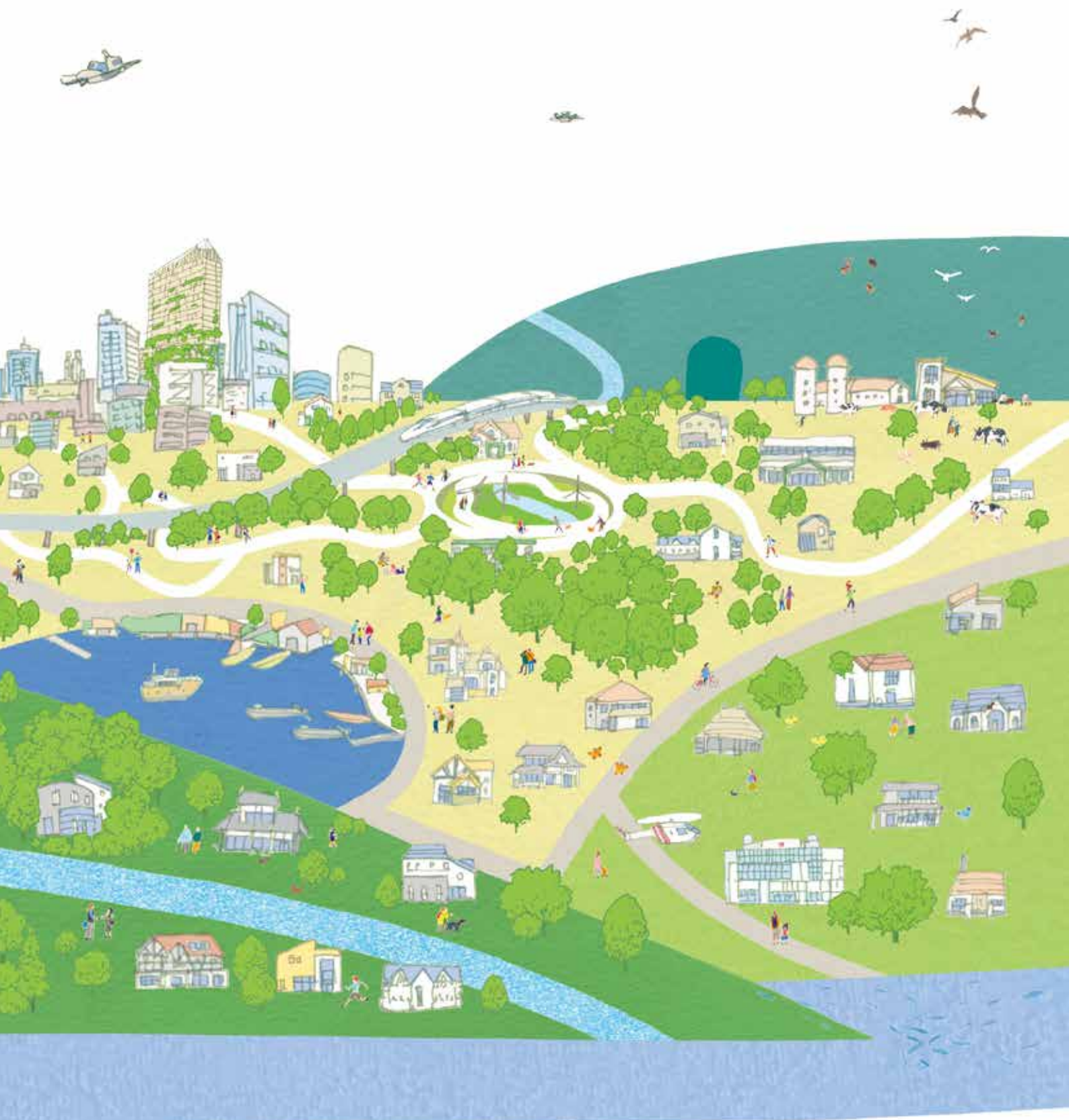
# 竹中コーポレートレポート2021

Corporate Report 2021





想いをかたちに 未来へつなぐ



サステナブル社会の実現を目指して  
当社グループが推し進める事業と取り組みを、  
コーポレートレポートやWEBで  
ステークホルダーの皆様にお伝えします。

### 編集方針

「竹中コーポレートレポート2021」は、竹中グループのグループCSRビジョンを示すとともに、グループ事業全体の取り組みをわかりやすくお伝えするものです。竹中工務店の活動内容を中心に構成し、誌面の都合で掲載できないコンテンツや事例、データについては竹中工務店WEBサイトに掲載しています。

2014年より会社案内(事業概要紹介)とサステナビリティレポート(CSR活動報告)を統合し、中期経営計画や財務・非財務の主要データを盛り込み、グループ・グローバルな展開を行う当社の事業活動全体をステークホルダーの皆様にご理解いただくことを目的に発行しています。

### 報告対象

■ 報告対象期間  
2020年1月～2020年12月  
当該年以外の活動も一部掲載しています。

■ 報告対象範囲  
竹中工務店の活動を中心にグループ会社の活動を含んだ内容としています。

■ 参考ガイドライン  
GRIサステナビリティ・レポート・スタンダード、環境省の「環境報告ガイドライン2018年版」及び日本規格協会発行の「日本語訳ISO26000社会的責任に関する手引」(第一版2010年11月1日)を参考にしました。

■ 発行  
日本語2021年3月(次回発行予定2022年3月)  
英語2021年5月(次回発行予定2022年5月)  
なお、より多くの皆様にお読みいただけるよう、WEBサイトでも公開しています。

■ お問い合わせ先  
広報部 03-6810-5140

企業WEBサイト  
(日本語版/英語版)

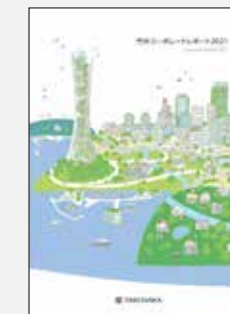


<https://www.takenaka.co.jp>



- 建築作品
- ソリューション
- 会社情報
- CSR情報 など

企業パンフレット(日本語版/英語版)



コーポレートレポート  
(日本語版/英語版)



建築作品集  
(和・英併記)



Financial Report  
(英語版)

当社の財務情報、非財務情報を統合しコンパクトにまとめました。  
事業活動や成果(作品)などもより詳しく紹介しています。

※技術・ソリューションの個別パンフレットもあります。

財務・非財務の広範囲にわたる詳しい情報をタイムリーにカバーしています。



# CONTENTS

4

## 竹中工務店について

- 4 グループ概要
- 5 竹中の歩み
- 7 グループCSRビジョン
- 8 名誉会長・会長メッセージ
- 9 社長メッセージ

12

## 重要課題(マテリアリティ)

- 12 竹中工務店の重要課題(マテリアリティ)
- 13 サステナブル社会に向けた取り組み
  - 環境への取り組み
  - 社会課題解決に向けたまちづくり
  - 建設プロセス改革と多様な働き方の実現

19

## 事業活動

- 19 建築 — お客様の想いをかたちに
- 23 海外 — お客様のグローバルな事業活動をサポート
- 25 開発 — まちづくりで新たな価値を創造する
- 27 エンジニアリング — お客様の課題に最適なソリューションを
- 31 技術開発 — オープンイノベーションで技術開発を加速
- 33 グループ会社 — 国内主要グループ会社の事業活動

35

## 重要課題(マテリアリティ)解決への取り組み

- 35 サステナブル社会に向けた2020-2022年活動計画
- 37 持続可能な建築・まちづくり
- 39 環境との調和
- 40 働き方・生産性改革
- 42 着実な生産プロセス
- 43 健全な組織基盤

45

## 社会貢献/コーポレート・ガバナンス

- 45 社会貢献活動の推進
- 46 コーポレート・ガバナンス
- 47 第三者からの提言
- 48 会社概要

49

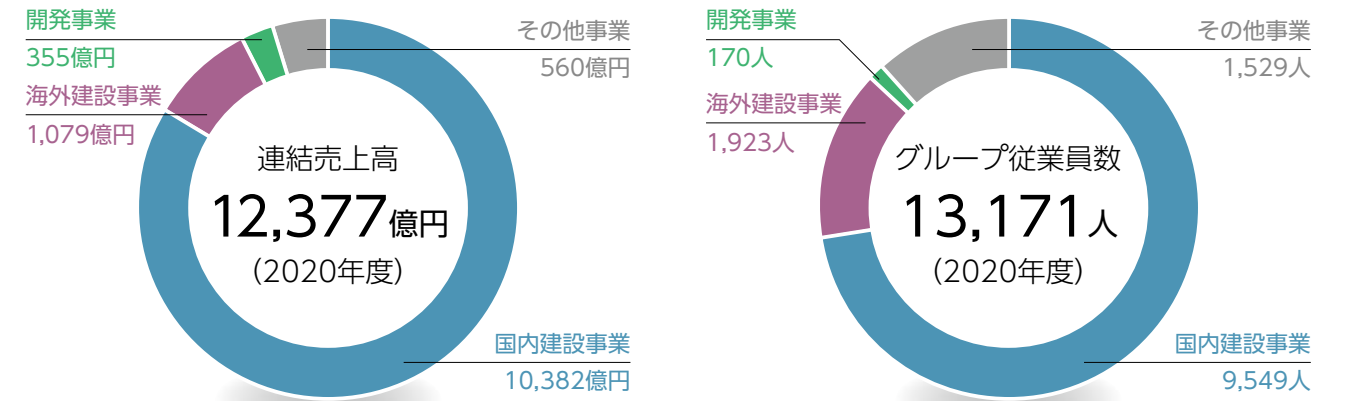
## 財務・非財務ハイライト



## グループ概要

グループ全体で「まちづくりの全てのステージ」でお客様の期待に応えます。

### 竹中グループの事業規模



### 竹中グループ主要各社の主な事業領域



※間接保有を除く主要な連結対象会社を記載しています。



# 竹中のこれまでとこれから

竹中工務店は1610年(慶長15年)の創業以来、建築を専業とし、ランドマークとなる数多くの建築物を手掛け、社会発展の一翼を担ってきました。建築とは、生命や財産を守る器であると同時に社会の資産であり、その時代の文化を後世に伝え継ぐものです。

そうした仕事に携わる誇りを込め、私たちは手掛けた建築物を「作品」と呼んでいます。日本の社会、経済、文化に深くかかわるようなプロジェクトに参画し、数多くの建築や技術を世に送り出してきました。お客様第一主義を貫き、建築の専門家として高い技術力を保持していくという宮大工の棟梁であった初代 竹中藤兵衛正高から受け継がれた精神は、様々な「作品」となって国内外へ、また建築の枠を超えて、「まちづくり」へと広がっています。

私たちはこれからも、あらゆる人にとっての「最良」を追求することで、社会の信頼に応え、豊かな「まちづくり」に貢献していきます。

## 1610



**1610**  
初代 竹中藤兵衛正高 名古屋で創業。  
神社仏閣の造営を業とする。

**1874**  
維新後、次第に洋風建築を手掛け、  
名古屋鎮台兵舎竣工。

**1884**  
三井銀行名古屋出張店竣工。

**1897**  
三井名古屋製糸所竣工。

**1899**  
14代 竹中藤右衛門が神戸に進出、  
創立第1年とする。

**1900**  
三井銀行神戸小野浜倉庫竣工。



**1909**  
合名会社 竹中工務店設立。  
神戸を本店に名古屋を支店とする。

## 1910

**1912**  
商店建築では日本初の  
鉄筋コンクリート造の  
高島屋京都店竣工。



**1916**  
鉄骨鉄筋コンクリート造の  
大阪朝日新聞本社竣工。



**1934**  
明治生命館(東京・丸の内)竣工。

**1937**  
株式会社 竹中工務店設立。  
資本金150万円。

**1941**  
株式会社 竹中土木設立。

**1957**  
南極観測用施設製作。  
竹中式潜函工法特許を取得。

**1958**  
高さ333mの東京タワー竣工。



## 1960

**1960**  
TAKENAKA & ASSOCIATES INC.  
をサンフランシスコに設立、  
海外事業を本格化。

**1963**  
国立劇場の設計競技において  
1等に入選。



**1969**  
株式会社 アサヒファシリティズ設立、  
ビル管理事業、保険事業に進出。

**1973**  
ヨーロッパ竹中設立、欧州へ進出。

**1974**  
タイ竹中、インドネシア竹中、  
シンガポール事務所設立、  
東南アジアへ進出。



**1978** **西ドイツ**  
日独センター竣工。

**1979**  
デミング賞実施賞受賞。  
竹中工務店を含むASTMグループが  
提案した芦屋浜シーサイドタウン竣工。



## 1980

**1981** **シンガポール**  
チャンギ国際空港ターミナル竣工。



**1983** **東京**  
大手センタービル竣工、開業。

**1986**  
第二国立劇場の国際設計競技に  
おいて最優秀作品に入選。

**1987**  
有楽町マリオン竣工。



**1987** **サンフランシスコ**  
ホテル日航サンフランシスコ  
竣工、開業。

**1988**  
竹中錬一会長がデミング賞本賞を受賞。

日本初の空気膜構造による  
多目的スタジアム・東京ドーム竣工。



## 1990

**1990** **大阪**  
クリスタルタワー竣工、開業。

**1990**  
マレーシア竹中設立。

**1991** **ハワイ**  
グランドハイアットカウアイ  
リゾート&スパ竣工、開業。



**1992**  
日本品質管理賞受賞。

**1993**  
日本初の屋根開閉式多目的スタジアム・  
福岡PayPayドーム竣工。



**1993**  
竹中土木インドネシア設立。

**1995**  
環境建築のパイオニア  
アクロス福岡竣工。



**1996** **タイ**  
アユタヤ銀行  
本社竣工。

**1997**  
5大ドームの一角ナゴヤドーム竣工。



## 2000

**2001**  
アメリカ竹中設立。

**2001**  
大分スポーツ公園 昭和電工ドーム大分、  
札幌ドーム「Hiroba」竣工。

**2003**  
中国竹中設立。

**ドイツ**  
現代自動車欧州本社竣工。



**2006**  
世界一の高さの超高層免震マンション  
シティタワー西梅田竣工。

**2007**  
中部地方一の高さを誇る  
ミッドランドスクエア竣工。

東京都心の大型複合施設  
東京ミッドタウン、  
新丸の内ビルディング竣工。



**2008**  
世界初の3棟連結超高層集合住宅  
アイランドタワースカイクラブ竣工。

**2009**  
三菱一号館の復元及び  
丸の内パークビルディング竣工。



## 2010

**2010**  
インド竹中設立。

**2013**  
燃エンウッド®を採用した  
大阪木材仲買会館竣工。



**2014**  
日本一の高さを誇る  
あべのハルカス竣工。

日本建築学会賞(作品)を  
明治安田生命新東陽町ビルで受賞。

**2017**  
再開発プロジェクト  
「ささしまライブ24」の  
中核となる複合施設  
グローバルゲート開業。



**2017**  
ベトナム竹中設立。

**シンガポール**  
東南アジアのハブ空港として、  
人と経済の流れを支えるチャンギ  
国際空港第4ターミナルビル竣工。



**インドネシア**  
LEEDプラチナ認証取得の優れた  
環境性能をもつパシフィック  
センチュリー プレイス ジャカルタ竣工。



## 2019

**2019** **京都**  
京都東山計画(山荘 京大和・  
パーク ハイアット 京都)開業。



**2019**  
スポーツイベント会場となる  
有明アリーナ竣工。



まちとともに文化を育む  
渋谷 パルコ・ヒューリックビル竣工。

先進医療の拠点となる  
国立循環器病研究センター竣工。



**2020**  
森林グランドサイクル®を加速する  
フラッツ ウッズ 木場竣工。



市民に開かれた  
横浜市役所竣工。

パシフィック横浜ノース竣工。  
PFI事業でヨコハマの景観に寄与する。



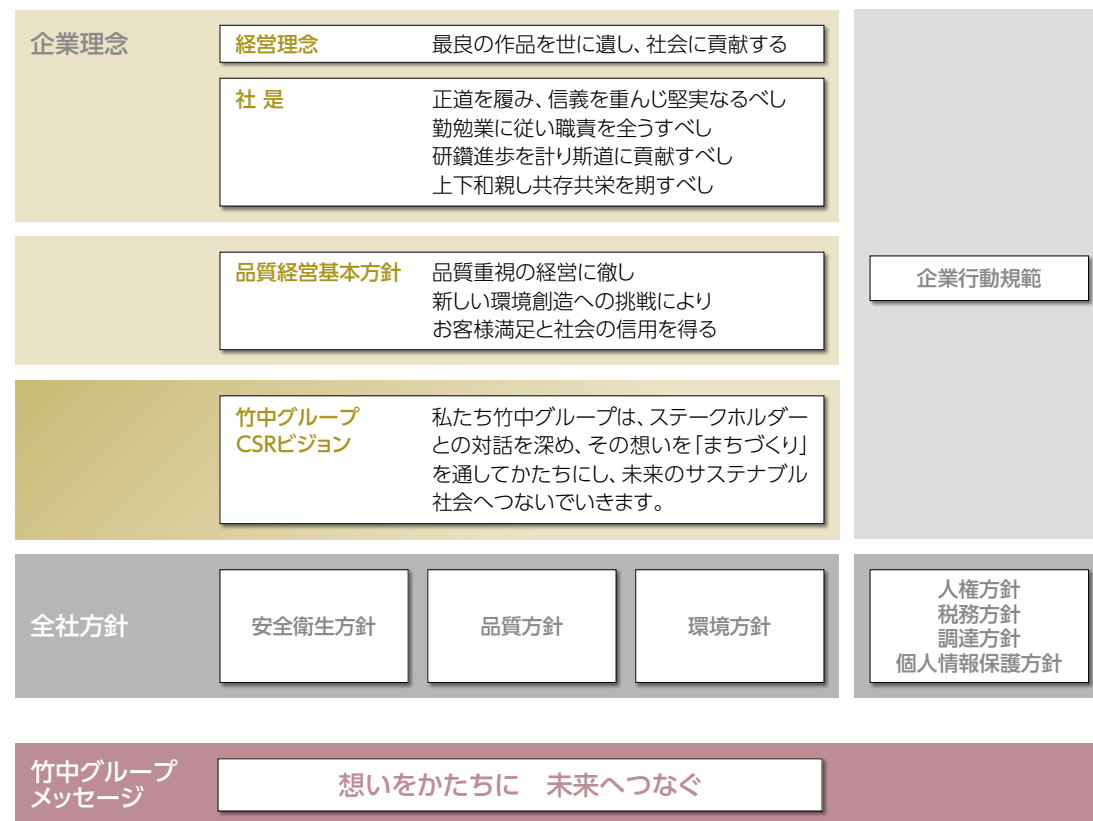
## 想いをかたちに 未来へつなぐ

当社は「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」ことを使命としてきました。そのために、社是を基本姿勢とし、手掛ける建築物の一つひとつを丹精込めてつくってきました。そして、お客様満足や社会の信用を得て企業の社会的価値を高める「品質経営」を継続しています。

更に、私たちを取り巻くステークホルダーが多様化する中で、建築に求められる機能や価値も変化してきており、これまで以上に社会と価値観を共有する企業活動が求められています。また、社会全体を見ても、「地球温暖化・気候変動」「安全・安心の確保」「社会インフラの老朽化」「少子高齢化」など多くの課題を抱えています。これらの問題は未来の社会に大きな

影響を及ぼす可能性があり、企業が果たす社会的責任は一層重要性を増しています。

こうした中で、当社はグループの力を結集し、社会そしてステークホルダーとの対話を深め、社会の課題を解決してサステナブル社会を実現することを示した「竹中グループCSRビジョン」と、当ビジョンを含む企業理念、品質経営基本方針の考え方を表現した「竹中グループメッセージ」を定めています。当社の原点である企業理念を一人ひとりが胸に刻み「品質経営」を推進するとともに、CSRの行動指針である企業行動規範を実践することで、このビジョンを実現していきます。



### 竹中グループCSRビジョン、竹中グループメッセージに込めた想い

私たちは、サステナブルな社会の実現に向け、「地球環境」「地域社会」「お客様」「従業員」「協力的会社」などのステークホルダーの期待に応えるとともに、その人々が集い、作用し合う「まち」が、今も未来も豊かで、安全で、優しいものでなければならないと考えています。そのために、ステーク

ホルダーとの対話をより一層深めていきます。そして、その「想い」を建築、土木、不動産・開発、ファシリティマネジメント、リニューアルといった当社グループの事業力を組み合わせた新たな価値をもつ「まちづくり」を通してかたちにし、未来のサステナブル社会を実現していきます。

## サステナブル社会の実現に向けて

私たちは「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」という経営理念のもと、創立以来、お客様の期待に応える建築を提供してきました。

企業が社会において担うべき役割は、時代とともに変化しています。世界がいま直面する、新型コロナウイルス感染症拡大による社会・経済への影響をはじめとして、気候変動や人口増加といった従来からある幾多の課題に対しても、その解決に貢献することが企業に求められています。

私たちは時代の変化にいつも敏感でありたいと考えています。そのために絶えず人々との対話を重ね、技術の研鑽を続けることで、時代が求める最良のソリューションを提供していきます。そして人々が安全に安心して暮らすための「まちづくり」にグループの総力で貢献することによって、サステナブル社会を実現し、地球の未来につないでいきたいと思ひます。

2021年3月



取締役会長

若谷宗虎

取締役名誉会長

竹中統一





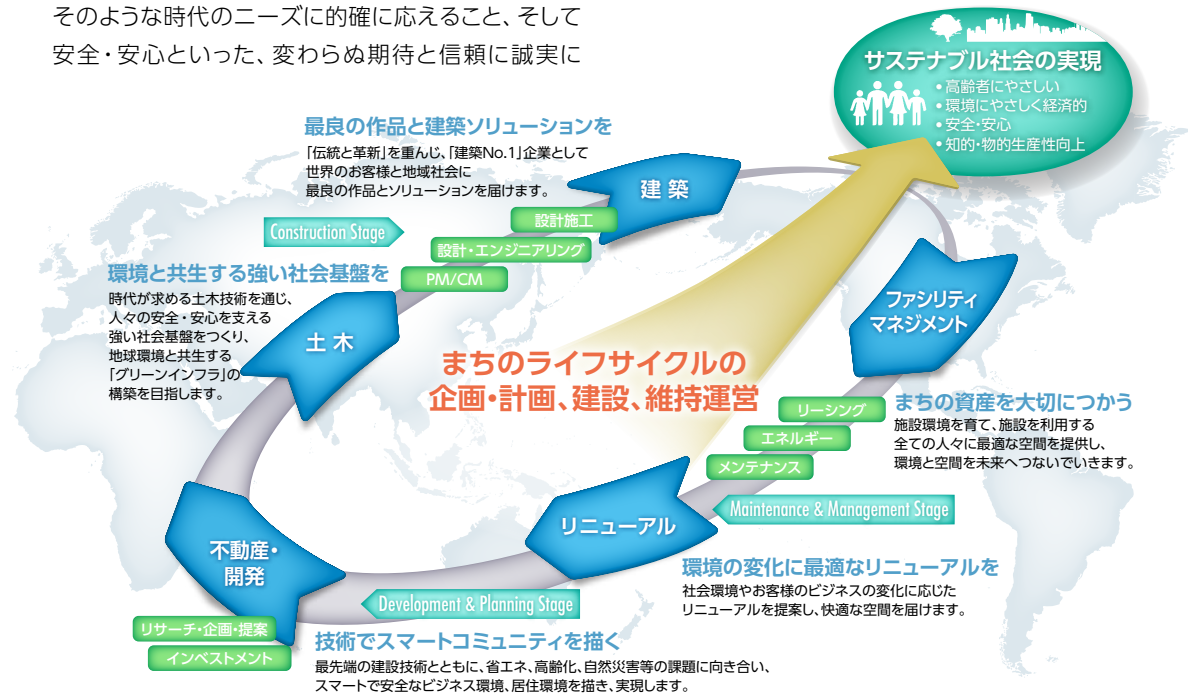
サステナブル社会の実現に向けて  
グループの力でまちづくりにかかわり、  
「まちづくり総合エンジニアリング企業」  
としての総合力を高めていきます。

2021年3月  
取締役社長  
佐々木 正人

### 豊かで安心な「まちづくり」

気候変動がもたらす自然災害への備えや環境・エネルギー制約への対応、より強く豊かな国土形成と地方創生、世界の都市・インフラの整備など、私たち建設業が取り組むべき課題は多岐にわたっています。そして人々の暮らし方や働き方の変化、企業活動のグローバル化、更には急務とされる社会全体のデジタル化の要請に伴い、まちや建築に求められる機能や価値も、絶えず高度化・多様化しています。そのような時代のニーズに的確に応えること、そして安全・安心といった、変わらぬ期待と信頼に誠実に

応え続けていくことは、建設業に携わる企業の責任であると考えています。当社は、品質を重視する経営姿勢を貫くとともに企業活動全体の質を高めていくことで、人々が幸せや喜びを感じることができる豊かで安心な「まちづくり」を通じ、これからもグループ全員でSDGsの達成に貢献し、サステナブル社会の実現に邁進してまいります。



### グループ成長戦略： グループで、グローバルに、まちづくりにかかわり、新たな価値を創る

私たちはグループ全体の事業領域を「まち」として捉え、グループ各社が緊密に連携し、「まちづくり」の構想段階から企画、計画、建設、維持運営にいたる「まち」のライフサイクルにおいてステークホルダーとの対話を深め、国内外における様々な課題に取り組み、人々が安心して暮らすことができるサステナブル社会の実現を目指します。そのためには建設技術とサービスが融合した新しいソリューションを生み出し、まちに新たな価値を提供することが必要です。私たちは「まちづくり総合エンジニアリング企業」としての総合力を高めるために必要となる多様な専門性、技術力、マネジメント力を発揮し得る経営資源の拡充、機能及び組織体制の整備、魅力ある職場づくりの推進、事業と人材・技術・ICTなどへ

の投資を計画的に推し進めることで、社会とお客様にとって最良のパートナーを目指します。



### 目指すサステナブル社会と「まちづくり」の推進

「まち」における解決すべき社会的課題や構築する社会システム、サステナブル社会への転換の道筋は多種多様であり、私たちは、「まちの基盤」「経済・文化」「生活(QOL)」「未来」という観点から「まち」の姿に沿って

ビジネスモデルを創出します。そのうえで、様々な領域での対話を通じて「まち」の課題を抽出し、必要な専門領域におけるグループのエンジニアリング力を発揮して「まちづくり」を推進してまいります。

#### 「まちづくり総合エンジニアリング企業」の事業領域

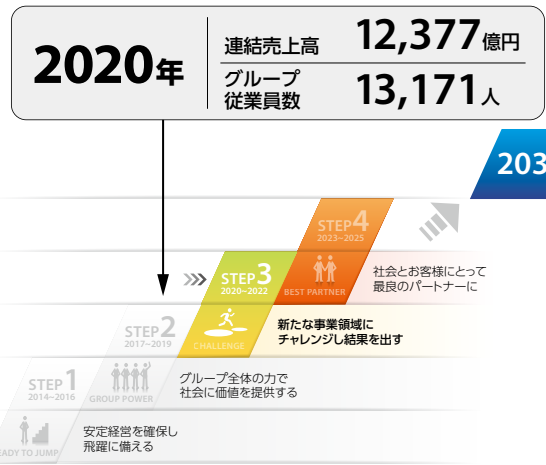




## 成長に向けたステップと、新たなマイルストーン

「まちづくり」にかかわるうえで様々な社会課題の解決に向けた取り組みが必要となりますが、2030年がSDGsのゴールの目標年であるとともに、当社の成長戦略STEP3開始から10年という節目になることから、「2030年のグループのマイルストーン」を設定しています。

グループのコア事業である国内建設事業を中心に、技術革新を含む建築・土木事業の高度化により持続的な安定経営を目指し、海外建設事業、開発事業に加え今後は新規・サービス事業の拡大を含め、連結売上高



1.6兆円、グループ従業員数14,000人レベルの体制を構築していきます。

一方、持続的な活動のためには人権尊重とコンプライアンスの遵守に基づいた具体的な目標を持つことが必要です。健全な企業活動のために、今後も従業員が心身ともに健康で活躍できる環境を整え、抜本的生産性向上と働き方改革を実現し、ワークライフバランスの向上を図るために従業員満足度調査をはじめ、平均労働時間、ガバナンスの強化、作業所閉所などのKPIを可視化し、達成していきます。



## 新型コロナウイルス感染症による影響と当社の対応

新型コロナウイルス感染症拡大による社会・経済活動への影響はこれまでにない規模に及んでおり、収束の時期についても見通しが立たない状況です。当社は、新型コロナウイルスの感染拡大当初から「当社の事業に関わるすべての人々とそのご家族の生命、健康及び安全を守ること」を第一とし、お客様の事業への貢献、社会経済基盤の維持及び関係者の皆様の生活基盤確保などを考慮し、感染予防に細心の注意を払いながら業務を継続してまいりました。

今後も、この前提に立ち、「3密」の徹底的排除をはじめ、時差通勤や在宅を含めた交代勤務の促進など、最大限の感染予防措置を一層強固なものとし業務を進めてまいります。

その一方で、コロナ禍における諸施策の中から業務のデジタル化や更なる生産性の向上といった従来から取り組んでいる課題推進にもつながら活動が見出されています。足元の環境変化に対応しながらも、サステナブル社会の実現に向けて貢献していくという揺るぎない想いをもって、確かな歩みを続けてまいります。



オンラインによる作業所の遠隔支援



ノトコミの空間事例

## 竹中工務店の重要課題(マテリアリティ)

竹中工務店は、「まちづくり総合エンジニアリング企業」として、社会課題を解決しサステナブル社会を実現するための重要課題(マテリアリティ)を特定しています。自社の成長戦略に重要課題を組み込み、その実現に向けた具体的な活動計画と目標を定め事業活動を展開していきます(「サステナブル社会に向けた2020-2022年活動計画」はP35-36参照)。

### 重要課題(マテリアリティ)グループ分けとSDGs

重要課題グループ	重要課題	SDGsとの関わり
持続可能な建築・まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境(ゼロエネ・脱炭素)・社会に配慮した建築とサービスの展開</li> <li>サステナブルなまちに向けた社会システムの創出</li> <li>建築とまちのレジリエンスの向上</li> <li>建築の長寿命化とストックの維持・活用推進</li> <li>伝統文化の継承と価値再創出</li> </ul>	11, 3, 7, 13, 15
環境との調和	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業活動におけるCO<sub>2</sub>削減</li> <li>今後の気候変動への対応</li> <li>生物多様性への配慮</li> <li>資源循環と廃棄物削減</li> </ul>	13, 15, 9, 12
技術革新と共創	<ul style="list-style-type: none"> <li>先端技術開発とイノベーションの推進</li> <li>共創活動の推進*</li> </ul>	9, 17
働き方・生産性改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働時間等の適正な労働条件の担保</li> <li>持続可能で生産性の高い建設プロセスの追求</li> <li>多様な人々の健やかで働きがいある環境の実現</li> <li>差別とハラスメントの撲滅</li> <li>人材の確保と育成・定着(従業員・協力会社)</li> </ul>	8, 5, 9, 10
着実な生産プロセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>高品質で安全な建築とサービスの提供</li> <li>公衆災害や労働災害のない作業所の実現</li> <li>持続可能なサプライチェーンの実現</li> </ul>	12, 11
健全な組織基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>信頼あるガバナンスの構築</li> <li>コンプライアンスの徹底</li> <li>情報開示や対話の推進による組織の透明性の向上</li> <li>リスクマネジメントの確立</li> <li>情報セキュリティの確保</li> <li>人権の尊重</li> </ul>	16, 5, 10

■: 社会関連 ●: 環境関連 □: 社会・環境関連 ◆: まちづくりイノベーション関連 ★: 組織基盤関連 ※「コミュニティ参画とパートナーシップ」から表現を改めました。

## SDGsや事業活動との関係性の整理

特定された重要課題を事業活動との関係性を踏まえて6つのカテゴリーに分けています。また、社会課題の抽出・評価と並行して、各課題とSDGsの紐づけを行い、上表のようにまとめました。更に、課題解決に向けて実行していく方策と、その進捗や達成度合いを測るKPI・目標を定め、活動計画として実践しています。そして、「私たちの活動をどのように進めていけば、サステナブル社会の実現とSDGsの達成を果たすことができるか」を構造化したのが右図です。「健全な組織基盤」のもとに、「技術革新と共創」「働き方・生産性改革」「着実な生産プロセス」とを、「地球環境との調和」をしながら進めることで、「持続可能な建築・まちづくり」を目指していきます。



## 竹中工務店の目指すサステナブル社会



# 環境への取り組み

当社は環境方針のもと、脱炭素社会・資源循環社会・自然共生社会の実現に向けて環境への取り組みに関して、特定した重要課題に対する計画・目標値を設定し、解決に向けた活動を推進しています。

## 気候変動への対応

### CO<sub>2</sub>削減長期目標

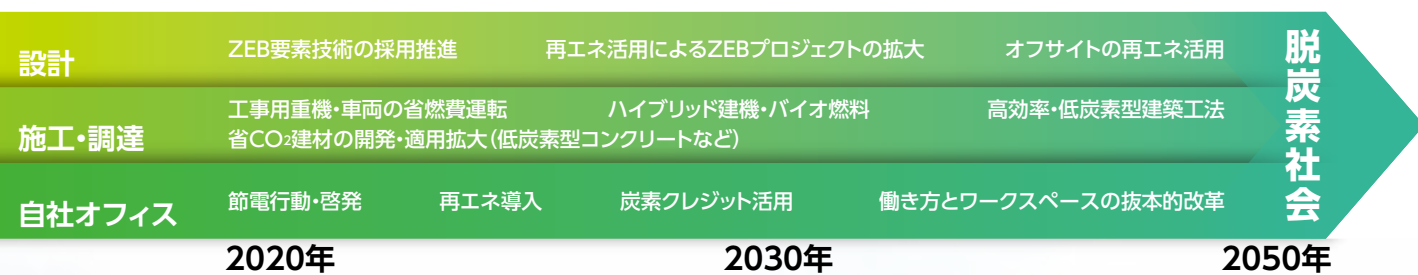
当社は、2010年に環境メッセージ「人と自然をつなぐ」と、2050年を見据えた環境コンセプトを制定、あわせて長期目標を設定して、ネット・ゼロエネルギービルの普及を目指してきました。世界でパリ協定の目標達成への動きが加速していることを受け、当社の長期目標を拡大し、事業活動全体を包含したCO<sub>2</sub>削減長期目標を2019年末に設定しました。

更に2021年には、2050年カーボンニュートラルを目指してより高い目標に改定するとともに、達成に向けたロードマップを作成しました。

### TCFD提言への賛同

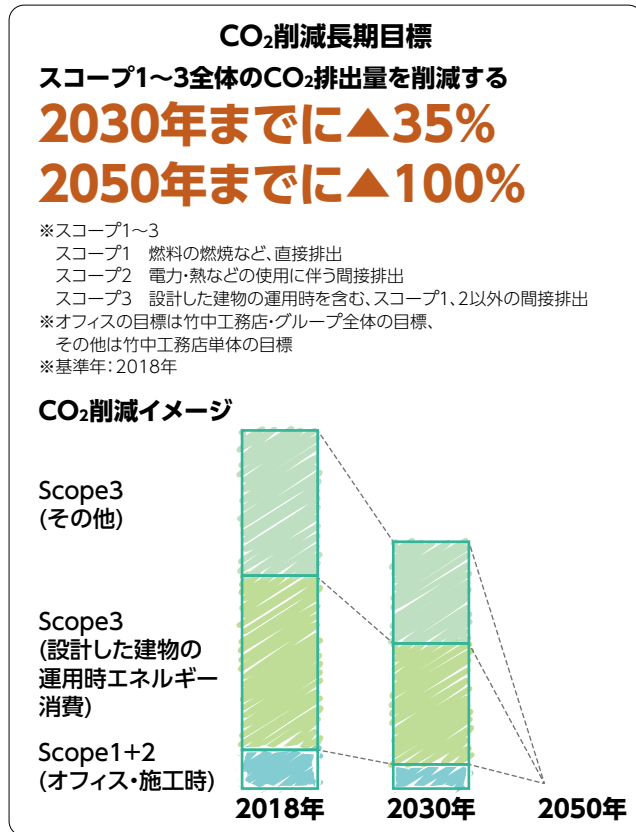
当社は、2021年1月にTCFD（気候変動関連財務情報開示タスクフォース）の提言への賛同を表明しました。既に、気候変動に関連する事業への影響（リスクと機会）の分析を始め、事業計画に反映しています。

### CO<sub>2</sub>削減長期目標の実現に向けたロードマップ



### 再生可能エネルギー事業への取り組み

岐阜県高山市奥飛騨温泉郷で、温泉熱で熱媒体を加熱・蒸発させ、その蒸気でタービンを回すバイナリー方式の地熱発電事業の開発に取り組んでいます。地元の奥飛騨宝温泉協同組合と連携し、50kWの発電を2021年春頃から開始する予定です。地熱発電はCO<sub>2</sub>を出さない発電であり、脱炭素社会の実現に貢献するとともに、地域の活性化にもつながる再生可能エネルギー事業を推進していきます。



## 環境方針

環境と調和する空間創造に努め 社会の持続的発展に貢献する

- ### 活動指針
1. 脱炭素社会、資源循環社会、自然共生社会の実現に向けた活動を積極的に推進する
  2. 環境保全に関する法規、社内規程を遵守し、環境リスク対策を推進する
  3. 品質保証体系に基づき確実な環境マネジメントを実施する
  4. 教育の実施により環境に対する意識の向上を図る
  5. きめ細かい環境コミュニケーションを実施する
  6. 社会的な環境活動に積極的に参加する

- ### 生物多様性活動指針
1. 事業と生物多様性の関わりを認識し、社内でも共有する
  2. 生物多様性を環境マネジメント上の重要な課題と位置づけ、確実に実施する
  3. 生物多様性に関わる知見を集積し、関連する研究・技術開発を推進する
  4. 企画・設計においては、生物多様性に配慮した計画を積極的に提案する  
資材やサービスの調達においては、協力会社とともに生物多様性の保全を推進する  
施工においては、施工計画の段階から生物多様性への影響を回避、低減する
  5. 自社施設において生物多様性に配慮した土地利用と運用・管理を推進する
  6. 当社及びグループ会社の役員・従業員、協力会社に対し、生物多様性に関する教育・啓発を推進する
  7. 生物多様性を推進するステークホルダーと連携・協働する

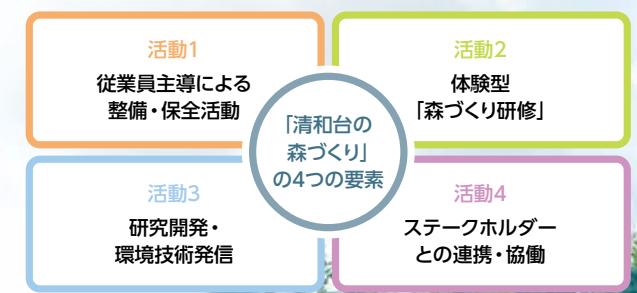
### 環境コンセプト

人の感性や創造性を高め、  
 自然を活かし、ライフサイクルCO<sub>2</sub>ゼロから  
 カーボンニュートラルな社会の実現を目指す

## 自然共生社会への取り組み ー清和台の森づくりー

SDGs（持続可能な開発目標）達成のためには、17のゴールのうち社会・経済側面の目標の基盤となる自然資本の目標である生物多様性を保全することが世界共通の課題となっています。当社は、「まちづくり総合エンジニアリング企業」として、「環境方針」[生物多様性活動指針]を具現化する「竹中生物多様性促進プログラム」を推進することで、生物多様性保全を含む社会課題の解決力を高め、持続可能な社会の実現に寄与することを目指しています。その代表的な活動に「竹中研修所」（兵庫県川西市）を活用した「清和台の森づくり」があります。当研修所を含む北摂地域は、「日本一の里山」と呼ばれる川西市黒川地区に代表されるように、伝統的な「里山利用の文化」が現代にも残る数少ない地域です。この地域特性を生かし、下記の4つの活動方針を定め、「清和台の森」が生態系・生物多様性保全のモデルを実践する場として、また広く社会課題を解決できる「人材育成の場」となるよう取り組んでいます。

2021年からは、これまでの森づくりに加えて、グラウンドを利用して、都市型水害リスクを低減する植栽空間「レインスケープ®」の実証や、都市農業の実践、木造・木質建築の推進やソフトウェアの試行など、生物多様性への配慮と新しい生活様式に対応した「自然共生実証フィールド」への取り組みを始め、その成果を今後のプロジェクトへと展開していきます。



これからも2030年、更にはその先の2050年を見据えて、「人と自然が融合する社会」に求められる建築とまちづくりとは何かを考え、社会課題を解決するための実証フィールドとして「清和台の森」を活用しながら、サステナブル社会の実現に向けた新たな可能性を創造していきます。

関連項目：P39 生物多様性への配慮



# 社会課題解決に向けた まちづくり

## —MACHInnovation®(マチノベーション)の推進—

当社は、地方と都会を結び「森林ランドサイクル<sup>®</sup>\*1」や、農地・緑地・水辺を活かした「心と体の健康<sup>®</sup>\*2タウン」の構築など、地域の資源を生かし、社会課題に対してこれから目指す社会やまちの姿を描き、課題解決に向けた仮説をつくり、地域の方々とともに実証実験を行いながら検証・実装を進めています。これらの活動を「MACHInnovation®(マチノベーション)」と名付け、行政・地域住民・企業・NPOなど多様なステークホルダーの方々との対話や連携を行い、まちづくりから社会システムの構築に向けて活動を広げていきます。

\*1 森林ランドサイクル:森林資源と地域経済の持続可能な好循環

\*2 健康:これまでの建築づくりやまちづくりの枠を超えて、誰もが健やかで、心豊かに生きていける場所を築いていく活動

## イースト・ベイ構想実現に向けて

当社の東京本店が立地し、今後臨海部のまちづくりが期待される江東区の湾岸・運河エリアにおいて、「イースト・ベイ構想」という未来像を掲げてまちづくりを進めています。この活動は、このエリアが水門に囲まれた運河や川を持つ親水性の高いエリアである特徴を踏まえ、水域の活用・活性化により陸地の価値向上を図ることを目的とし、様々なステークホルダーの方々との協働し実践しています。

### ● 木のまちづくり

昔、木の街であった深川エリアの門前仲町において、大横川沿いの飲食店に川床テラスをつくり、水辺を木質化することによって、水辺のにぎわいや観光名所づくりにつなげる社会実験を行っています。将来的に川沿いの木質化を景観的にも事業的にも成功させることで、今後、連鎖的に木質化していき、水辺のにぎわいがつながっていくことを目指しています。また、川床には江戸期から昭和中期まで木材の舟運が盛んに行われていた荒川の上流域に位置する埼玉県比企郡小川町産の木材を使い、地方と都市の資源循環モデルの試みもあわせて行っています。

### ● 健康緑道

まちや健康への関心が高まる仕組みを通し、喜びや楽しさを感じてもらうことを目的に、江東区東陽1、2丁目の汐浜運河沿いをまちづくり協議会や周辺の企業と連携し、健康になる緑道化した歩道が「フィットネスロード汐浜運河」です。この歩道では、

自身の歩幅を確認することのできる「ステップウォーキング」や、リフレッシュ効果のあるハーブのプランターを設置するなど、歩きながら楽しむことのできるスポットを用意しています。更に2020年は汐浜テラス、コンテナカフェ、簡易栈橋を設置し、東京都港湾局の運河ルネサンス推進地区の指定も受け、地域のにぎわいや魅力の創出を図ります。こうしたコンテンツや仕組みが地域の活性化や健康にどのように波及していくか、今後も社会実証を重ねていきます。



汐浜テラス

### ● アーバンワイナリー

都市農業は食料の生産供給だけでなく、環境、経済、社会、健康面の社会課題を解決するツールとして注目をされています。屋上などの未利用地の価値を高め、地域のコミュニティ醸成や賑わい創出などを実現する実践的な手法として、江東区内の屋上でブドウ栽培の実証実験を行っています。

## 雲南ソーシャルチャレンジバレーの推進

当社は2019年4月に島根県雲南市・ヤマハ発動機(株)・NPO法人ETICと雲南市内の地域課題解決と市民の豊かな暮らし創造に資するための「地域連携協定」を締結しました。また、協定締結の一環で、当社の社員を「地域おこし企業人」として雲南市の政策企画部政策推進課に研修派遣を行っています。雲南市では、地方創生戦略として「雲南ソーシャルチャレンジバレー」を構想し、「子どもチャレンジ×若者チャレンジ×大人チャレンジ×企業チャレンジ」を掲げ、地域住民や若者たちが自ら地域の課題を解決したり、地域ぐるみで子どもたちの生き抜く力を育むなどの取り組みを推進しています。更には地域課題の解決に関心のある市内外の企業が、地域の方々とともに社会課題解決や新たな価値創造を目指した様々なチャレンジを行っています。「地域おこし企業人」の社員がこの「企業チャレンジ」の事務局を担い、仕組みの構築・企業と地域の橋渡しを進めています。

具体的なチャレンジとしては、当社は健康なコミュニティを支える「笑顔測定システム」などの実証事業と更には実装を、ヤマハ発動機がグリーンスローモビリティの活用、ヒトカラメディアが空き家再生を目指してチャレンジしています。2019年4月から2020年3月までの1年間で34社の企業が視察に訪れ、多くの企業がチャレンジの検討を進めています。雲南市から生まれた社会課題を解決するまちづくり、社会システム構築の手法や新たな事業が、日本はもとより世界の地域や社会に広がっていくことを目指して活動を今後も深めていきます。



笑顔測定及びヤマハ発動機グリーンスローモビリティ実証事業の様子

## 今後の展開

これらの活動を着実に深めていくとともに、今後は更に地域を広げていきたいと考えています。2019年11月には埼玉県比企郡小川町及びNPO法人あかりえと、2020年1月には長野県塩尻市と「連携協定」を締結しました。森林ランドサイクルに関する取り組みを協働により推進することで、持続可能な社会づくりや地域課題の解決に貢献していきたいと考えています。また、地域が持っている歴史的建物・文化資源などの活用やエネルギーの地産地消などについても取り組んでいきます。

具体的な活動としては、塩尻市において(一社)塩尻市森林公社とともに、森林ランドサイクルの実現に向けて、伝統的な街並みが残る中山道の奈良井宿の活性化に取り組んでいます。空き家の有効活用により、大都市と地方都市の経済循環が生まれることを目指しています。

小川町では、築約100年の大谷石の石蔵を改修することで、新たな地域活性化の拠点として地域で働く人々や訪れた人々に活用される空間整備を行うなど、地域の社会課題解決に向けた取り組みを開始しました。

このように、自治体・地域の方々をはじめとした様々なステークホルダーと連携・協働し課題解決に向けた構想を立案し、社会実験から実装へとプロセスを進めるMACHInnovation(マチノベーション)の活動で、地域の資産と課題に寄り添い、知恵を出し合い、実践していきます。



塩尻市との地域連携協定の締結



塩尻市奈良井宿の街並



# 建設プロセス改革と多様な働き方の実現

建設業の持続可能性を維持していくために、建設技能者の減少への対応や、ワークライフバランス (WLB) の向上を図っていくことが喫緊の課題となっています。そのために、BIM\*やICT、機械化施工やAI/ロボティクスなどの最新技術を取り込みながら、設計から生産に至る業務プロセス全体を変革することで、生産性向上を目指しています。

\*BIM:3次元の建物デジタルモデル(Building Information Modeling)

## 次世代の革新的な建設現場を目指して

当社は、建設技能者の減少や働き方改革に対応した「竹中新生産システム」を進め、生産性向上と業界の魅力向上に取り組んでいます。作業所でのデジタル技術活用による次世代の革新的な建設現場を目指して、ロボットやIoTなど先端技術の開発・活用に取り組んでいます。

- **作業所ニーズに合致した、作業をサポートするロボットの開発**  
建設技能者の高齢化・生産年齢人口の減少の中、作業準備に時間がかかり、肉体的に負荷が大きい作業に重点を置き、ロボット開発を進めています。特に高所での作業は、早く安全に行うことが求められます。そこで設備工事において「天井用設備の揚重機械」を開発しました。今後は、作業に応じて拡張ができる作業床の開発を進め、あらゆる作業領域の高所作業の飛躍的な作業効率向上を目指します。
- **また、開発を行うロボットは複数の作業をこなす万能型ロボットではなく、コンクリート打設、溶接作業、耐火被覆吹付、清掃、ボード加工などといった機能を限定し、設置・移動が容易なロボットの開発を目指します。**

- **ロボットの操作及び運用を簡単にするロボットプラットフォームの構築**  
各種ロボットの活用が進み、稼働台数の増加・機能の高度化に伴い、ロボット本体の維持管理に手間がかかることが新たな課題となることが予想されるため、多数のロボットを同一プラットフォーム上で操作・監視・管理を行う「建設ロボットプラットフォーム」の構築を進めます。

ロボットプラットフォームを活用することで、遠隔でロボットのバッテリー状態などの個々の状態を監視でき、ソフトウェアの更新が容易となります。また、監視データを予防保全に活かすことで保守・メンテナンスの手間も大幅に軽減できます。

- **遠隔操作技術でリモート作業を推進(TawaRemo™)**  
クレーンの遠隔操作技術の開発を進めています。遠隔地からの操作だけでなく、コックピットを荷取りヤード近傍に設置します。これにより、玉掛け状況を目視確認することができ、クレーンオペレータの身体的・精神的負担\*の軽減に加えて、安全性にも大きく寄与することができます。また、多地点に設置されたコックピットを連携させることにより、若手オペレータに対する熟練オペレータの教育・指導・サポートが可能となり、若手への技術伝承、技術向上につながります。

\*身体的・精神的負担:通常オペレータは、操縦席のあるタワークレーン上部まで、マストの中のはしごを登っています。

- **場内通信インフラの構築(TSUNAGATE™) (特許出願済)**  
ロボット・情報化技術を活用するためには、作業所における通信インフラ構築が重要です。インターネット接続を可能にした仮設分電盤を介し、建設現場にネットワーク(無線LAN)環境を構築します。地下などの電波の届かないエリアにWi-Fi環境を構築した分電盤を使って、照明制御の機能も備えることができます。情報化技術(ウェアラブルカメラなど)を活用し、施工管理のテレワーク化を進め、遠隔地における管理業務にも活用することで、施工品質の更なる向上と業務効率の大幅な改善を実現します。



## 取り組みの背景

### 【環境変化への適応】

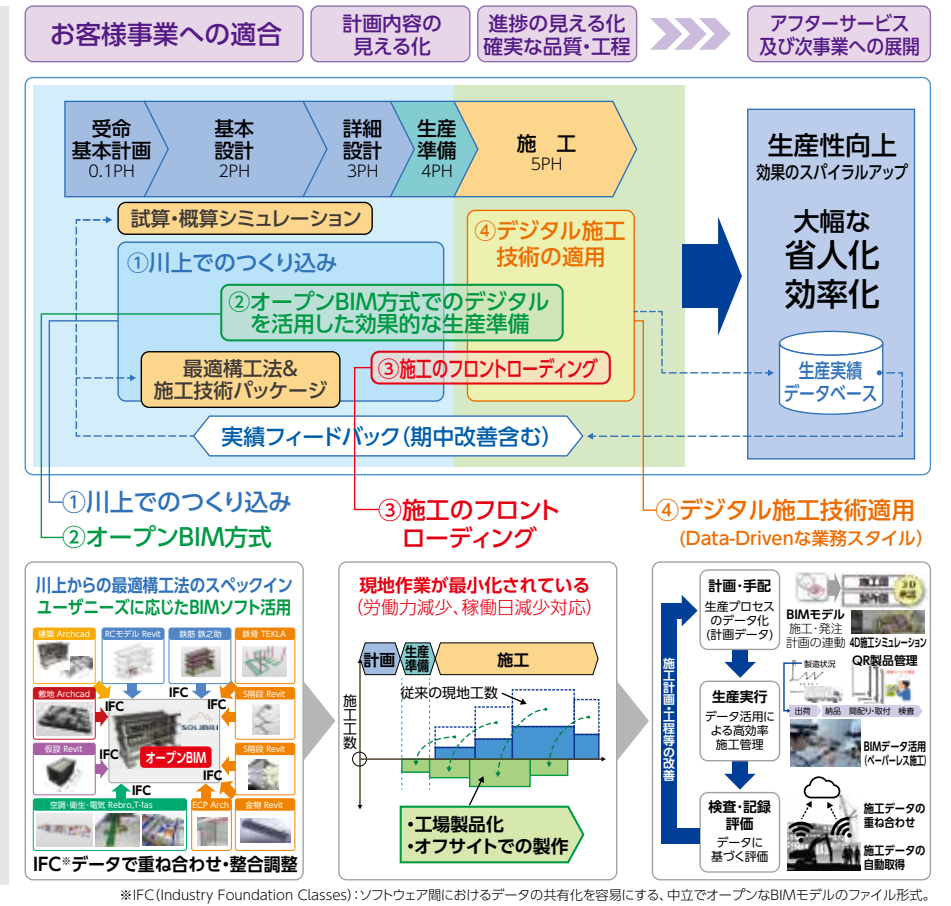
- ① **建設技能者減少**  
・新規入職者減少  
・建設技能者の高齢化  
働きがい・多様性及び生産性向上
- ② **稼働日大幅減少**  
(4週8閉所の目標達成)  
・18年末の稼働日280日  
21年末に250日  
(18年比で30日減/年)
- ③ **総労働時間削減**  
・法定外時間の上限規制  
24年4月改正労基法施行
- ④ **改正建設業法**  
・適正な工期の遵守  
(著しく短い工期・工期の禁止)  
20年10月施行

### 【生産性阻害要因の排除】

着工後に多くの調整事項や変更が発生

着工までに課題解決 (施工BIMによる整合調整)

## 「竹中新生産システム」の基本業務プロセス



## 多様性を尊重しながら生産性向上と「働きがい」「やりがい」を高める

- **WLB向上委員会の活動**  
2017年にスタートした当社のワークライフバランス(WLB)向上活動は、核となる「抜本的全社生産性向上によるWLB向上委員会」の設置期間を3年間延長し、多様性を尊重しながら生産性向上と「働きがい」や「やりがい」を高め、作業所の4週8閉所や2024年4月から建設業に適用される、時間外労働の罰則付き上限規制に照準を合わせて活動を継続しています。
- **WLBダイアログの実施**  
委員会の重要な活動の一つである「WLBダイアログ」では、2017年以降、現状や課題を把握するため、社員と経営層の間で毎年意見交換を行い、これまでに40回753名の若手社員やライン長等と社長が意見交換を行いました。2020年には、ダイアログで抽出された課題を踏まえ、作業所で勤務する人々がWLB向上の効果を実感できることを重点目標の一つに設定し、「変えること、やめること」を明確にして活動を進めています。また、上長向け対話トレーニングセミナーを開催し、職場ですぐに実践できるコミュニケーション術による行動変容を促しました。
- **改正建設業法への対応**  
2020年に施行された改正建設業法では「著しく短い工期による請負契約の締結を禁止する」条項が盛り込まれました。この法改正は、「働き方改革」や、時間外労働の上限規制への対応を進めるうえで重大な意義があるとの認識のもと、工事請負においてお客様と適正な工期による契約の締結に務めるとともに、協力会社との契約においても、工期のしわ寄せが及ばないよう、Q&Aを作成して社内周知を図り、リーフレットの制作などお客様や協力会社への説明資料を整備し、丁寧な説明とご理解をお願いをしています。
- **「竹中新生産システム」のスタート**  
2020年より本格的に「竹中新生産システム」の取り組みがスタートしました。当社の静岡営業所と岡山営業所の建替計画は、国土省の「BIMを活用した建築生産・維持管理プロセス円滑化モデル事業」として着工し、設計から生産、FMIに至るBIMのデータ連携や効果的な活用を図るとともに、その成果を社内外に発信します。協力会社との連携やBIMの活用により、川上段階でのつくり込みを図り、着工までに必要なもの決めを確実にし、工事期間中は最新のデジタル施工管理技術を活用することで現地作業を最小化し、今後の作業所運営モデルを構築するチャレンジを進めています。



# お客様の想いをかたちに

建物に求められる機能は高度化、多様化しています。  
「サステナブル・ワークス®」「総合力から生まれるデザイン」「魅力再生®」などに  
持続的に取り組みながら、建築の新たな価値創造にチャレンジしています。



## サステナブル・ワークス®

当社が提唱する「サステナブル・ワークス」とは、「お客様とともに環境に調和する空間創造を行うことを目指した建築への取り組み」を意味します。持続可能な社会を次世代に手渡すための建築からのアプローチであり、地球環境や社会に貢献したいと願うお客様の想いをかたちにするお手伝いでもあります。

## 読売テレビ新社屋

—関西から世界へ情報を発信する—

設計・施工=竹中工務店(2019)

大阪城公園の広大な緑に面するOBP地区に新築移転した「読売テレビ新社屋」(大阪市中央区)。1・2階は開放的な屋外ピロティと円形ロビーを設け、来街者に親しみやすい“広場としてまちに開かれたテレビ局”を実現しました。屋上には庭園を設け、川をはさんで隣接する広大な大阪城公園と緑でつながる、ダイナミックな風景を演出しています。私たちはこれからも「デザイン」「技術」「環境」の融合によって新しい付加価値を持つ建築の創造に貢献していきます。



### 12 人とまちとメディアが創るにぎわいゾーン

**木質系のしつらえによるにぎわい広場**  
屋外ピロティや円形エントランスロビーといった1・2階の公開エリアは、来街者が自由に立ち寄れる“にぎわい広場”となるように、トンカジャロ(円形壁)、スクピラ鋸目(床面)、杉板本実型枠打放し(RC柱)などの木質素材の温かいカラースキームによる設えとしました。



### 15 大阪城の緑とまちにつながるシンボリックな外観

**大阪城公園につながる屋上緑化**  
まち・川・城の3つの軸線の切替部に設けられた多様な屋上庭園は、広大な大阪城公園の緑につながるランドスケープデザインとしました。また、南側の全居室をガラス張りとする事で、社員や出演者など建物を訪れた人々は、室内から大阪城公園の緑を眺めることが出来ます。



### 11 あらゆるリスクに対応できる強靱な社屋

**様々な災害を想定したBCP対策**  
大地震や超大型台風などいかなる災害時でも放送を継続可能とするために、広範なBCP対策を講じています。映像資産を建物内に管理保有するのはもとより、エントランスロビーには災害情報報道などの提供に活用できる大型ビジョンを設置し、非常時の地域貢献拠点となるよう配慮しています。



### 3 社員とスタッフがいきいきと快適に働くことができるファインアメニティ

**多様な働き方を実現する、様々なワークプレイス**  
建物内に分散して設けた屋上庭園、展望テラス、食堂、カフェなど、屋内外のあらゆる場所がワークプレイスとして利用可能となるよう配慮を行っています。これらのアメニティ空間は撮影にも積極的に利用されています。



### 8 タテヨコ、ウチヨソの情報交流がしやすいコミュニケーションプラットフォーム

**コミュニケーションを誘発するスーパークリエイティブ工房**  
内部では窓際の外周部から順に必要諸室を配置し、中央に残る空きスペースを吹抜けとして、その周囲に内階段を組み込みました。使いづらい床を無くすことで明るい光が落ち、人々の動きが可視化されます。吹抜けは各階の屋上庭園やエントランスにつながり、いわばコミュニケーションの幹として機能しています。



### 13 ライフサイクルコストを考慮した環境対応性能

**放送機能の特性・スマートウェルネスに配慮した省CO<sub>2</sub>技術**  
多消費エネルギー型の放送施設に対して、冷水2温度送水熱源制御、スタジオ可変空調、不燃性ソックダクト利用ラック空調(特許登録)、気流感可変制御、明るさ感を高める照明制御、省エネ厨房空調・換気制御の導入などにより、CASBEE Sランク認証取得とCO<sub>2</sub>排出量26%削減を実現しています。





# お客様の想いをかたちに

## 総合力から生まれるデザイン

渋谷の街を特徴づける「坂」と「通り」に着目し、白いキューブを積み上げた外周を縫うように、スペイン坂から続く立体街路を地上から屋上までつなげました。街路沿いには、路面のように店舗や劇場を配置し、人の流れや賑わいを呼び込むことで、渋谷らしい界隈性を持つ積層した「まち」を創り出しました。



### 渋谷 パルコ・ヒューリックビル ストリート文化を次世代へつなぐ

設計・施工=竹中工務店(2019)



街の通りに面して広場や公園があるように、立体街路沿いにもイベントや憩いのための広場が点在し、街の賑わいを支える場を提供しています。



立体街路を上り着いた先にある10階の屋上広場は、イベントスペース、カフェ、コワーキングオフィスなどが面し、様々な目的の人がふれ合う交流の場となっています。



渋谷PARCOの文化創造・発信の中核を担うのが、8階のPARCO劇場です。旧劇場の舞台と客席の距離感を継承し、舞台との一体感そのままに、636席のプレミアムシアターとして生まれ変わりました。

## 魅力再生®

建物は私たちの生命や財産を守る器であるとともに、社会全体の資産でもあります。当社の提唱する「魅力再生®」では、時を経た建物に新築時の機能や美観を回復させるだけでなく、新たな機能を付加することで資産価値を高め、事業性を向上させることを目指しています。

SDGsの視点からも、「スクラップ&ビルドからストック活用へ」という価値観が広く浸透しつつある現在、時代にそぐわなくなった建物の機能や性能の向上のみならず、歴史的意義をもつ建物の保存・再生や、用途変更（コンバージョン）による新たな価値創造など、社会的ニーズが多様化・高度化しています。「魅力再生」プロジェクトでは、これまでに培った設計力や技術力を活かして社会に貢献し、BELCA賞（公益社団法人ロングライフビル推進協会主催）を受賞するなどの高い評価を得ています。（受賞件数72件 2021年1月現在）



### 旧山口萬吉邸 / kudan house

昭和2年（1927年）に竣工したスパニッシュ様式の洋館、「旧山口萬吉邸」（千代田区九段北）の歴史性を活かして再生しました。当社も事業に参画し、旧個人邸を会員制のビジネスインベーション拠点として運用しています。歴史的建物について経済性にも配慮して保存・活用を継続させる「レガシー活用事業」としてサステナブル社会の実現に貢献しています。

2018年 登録有形文化財（国）  
改修設計=竹中工務店(2017)  
改修施工=東京理建(2018)



### 大丸心斎橋本店館建替計画

ウィリアム・メレル・ヴォーリズ設計の百貨店。創建当初の姿を留める外壁を保存再生するとともに、意匠的価値の高い内装部位を再利用し、店舗空間を復元しました。道路上空各階での本館・心斎橋パルコ（大丸心斎橋店旧北館）一体化、保存部との対比と調和が織りなす新しい空間創造など、百貨店の競争力強化と街の回遊性を高めて心斎橋地域に更なる賑わいを発信しています。

第38回日本照明賞  
MIPIM Asia Awards 2020 SILVER AWARD  
2020年CFT構造賞

基本設計・監修=日建設計  
実施設計・監理・施工=竹中工務店(2019)



### 御堂ビル インベーションスペース 整備計画

築50年超の当社本社ビルを改修し、時代の変革に対応した新しい価値を創り続けるためのワークスペースに再生しました。既存の床に5層の吹抜け階段を設け、偶然の出会いと情報共有の確率を高めるとともに、仕事に応じた多様な空間を設けています。BIMを用いた「建築の新しいつくり方」にも挑戦しています。

2018年 第28回BELCA賞 ロングライフ部門  
2018年 第31回日経ニューオフィス賞 ニューオフィス推進賞  
設計・施工=竹中工務店(2017)





# お客様のグローバルな事業活動をサポート —各国・地域に貢献—

長い歴史をもつ当社の海外活動は、1960年のアメリカ進出をきっかけに本格化し、現在では世界各地にネットワークを広げています。

海外進出を目指す日本企業、各国公的機関や現地企業などをお客様に、国際空港から超高層オフィス・ホテル・工場・美術館など、多彩なプロジェクトを手掛けてきました。設計施工はもとより、技術支援・コンサルティング業務など、活動範囲も多岐にわたっています。

海外の主な営業拠点を掲載しています

## ■ ヨーロッパ

1973年にドイツ・デュッセルドルフに事務所を開設して48年。ヨーロッパ竹中は、これまで1,500以上の工事を手掛けてきました。現在では13か国に展開する拠点で活動する約60名の駐在員と約570名のローカルスタッフが連携し、ヨーロッパ域内への進出を検討されているお客様を支援しています。



\* 開発事業

## ヨーロッパ

## アジア/中国

### ■ アジア / ■ 中国

タイ、シンガポール、インドネシアにおいては拠点設立から47年目を迎えました。マレーシアでは2020年に拠点設立から30年目を迎えました。2017年にはベトナムに拠点を設立し、現在8か国で展開しています。中国を含めたアジア地域への駐在員は約130名、ローカルスタッフは約1,700名が活動しています。プロジェクトの規模や建築種別にかかわらず幅広く対応しています。

## シンガポールのチャンギ国際空港第2ターミナル拡張工事を施工中

シンガポールのチャンギ空港はアジアを代表するハブ空港です。当社は、開港時(1981年)より第1ターミナルに携わってきたほか、チャンギ国際空港における新築・増改修にかかわる数多くの実績を積み重ね、2017年にはチャンギ国際空港第4ターミナルを手掛けました。今回の拡張工事においては、利用可能人数を増やすために、出発・到着ロビーの配置替えや手荷物受取場、トランジットホールの改修に加えて、自動チェックイン・手荷物預入機の配置を更新します。竣工は、2024年頃を予定しています。



## アメリカ



\* 開発事業

## ■ アメリカ

当社はアメリカへ1960年に進出し海外事業の礎を築きました。現在は開発事業及びコンサルティング事業を中心に活動しています。



ジャガー・ランドローバースロバキア新工場(2018 スロバキア)



イオンモール ジャカルタガーデンシティ(2017 インドネシア)



チャンギ空港 第4ターミナルビル(2017 シンガポール)



パシフィック センチュリー プレイス ジャカルタ(2017 インドネシア)



キャピタルグリーン(2014 シンガポール)



NEXENタイヤ ドイツテクニカルセンター(2018 ドイツ)



Yankee Candle チェコ新工場(2017 チェコ)



コンチネンタルタイヤ タイ新工場(2018 タイ)



IKEAマレーシア物流センター(2020 マレーシア)



三光合成グジャラート新工場(2018 インド)



無錫村田電子有限公司第二工場(2020 中国)



シンガポール国立美術館保存再生(2015 シンガポール)



ハマド国際空港 王族・国賓専用ターミナル(2013 カタール)



# まちづくりで新たな価値を創造する

東京都心部、横浜、名古屋駅前、大阪都心部において当社は数々の都市再生プロジェクトの企画や設計、施工を手掛けてきました。また、市街地再開発事業やPPP/PFI事業、自社開発事業、まちづくり組織への参画なども積極的に行っています。当社はまちづくりへの様々な取り組みを通じて、国際競争力の強化、安全・安心の向上、環境共生など都市が抱える課題やニーズの解決に貢献しています。



## 【市街地再開発事業】

### 渋谷 パルコ・ヒューリックビル

渋谷駅周辺地区のまちの魅力向上に資する新たなタイプの都市再生特区提案の支援、特定業務代行者として再開発事業の推進、設計・施工、エリアマネジメント運営支援などを行い、2019年11月にオープンしました。渋谷の坂や通り、まちの界限性を建物外周部に立体街路として取り入れ、パルコならではの個性的な店舗や劇場、インキュベーション施設、先進的オフィス、広場などを有機的に連携させ、ファッション・アート・演劇文化、クリエイターの育成・情報発信拠点として、まちの新たなにぎわい創出に貢献しています。

設計・施工=竹中工務店



## 【PPP/PFI事業】

### 横浜みなとみらい国際コンベンションセンター(通称:パシフィコ横浜ノース)

本事業は、グローバルMICE戦略都市を掲げる横浜市が、国際会議で有名なパシフィコ横浜の機能強化を目的として新たにMICE施設(PFI事業)とホテル(民間収益事業)を複合的に整備・管理する事業者を募集したもので、当社は代表企業として2015年に当選を果たしました。豊かな歩行者ネットワークの整備やミナトヨコハマの景観形成など、まちづくりの視点からの期待も高く、2020年の春に竣工しました。

※MICE: Meeting・Incentive・Convention・Event / Exhibition

MICE 設計=竹中工務店(JV) 施工=竹中工務店(JV)  
ホテル 基本構想=竹中工務店



## 【国内開発事業】

### 京都東山計画(山荘 京大和・パーク ハイアット 京都)

当社の自社開発として、開発から設計・施工・運営まで一貫して手掛けたプロジェクトです。2019年10月、京都の街と八坂の塔を同時に望むことができる絶好のロケーションに、70室のラグジュアリーホテルが誕生しました。「山荘 京大和」が引き続き料亭事業を行う歴史的建築物や庭園などを保存・復元することで、伝統と新しい文化を融合させてきた京都らしさを取り入れました。

設計・施工=竹中工務店 インテリアデザイン=トニーチー+竹中工務店  
作庭=北山安夫



## 横浜市役所

横浜市の行政・議会機能に加え、文化芸術事業などが行えるアトリウムを備える新市庁舎です。設計・施工者として基本設計から、開かれた市庁舎と新たな都市景観の創出に取り組むだけでなく、ワークショップやシンポジウムなどにより、市民の関心向上や地域貢献活動を行いました。

設計・監理=竹中工務店・横総合計画事務所  
NTTファシリティーズ  
施工=竹中工務店(JV)

## 大阪梅田ツインタワーズ・サウス

(2022年竣工予定)

西日本最大のターミナルに位置する百貨店・オフィス・カンファレンスホールの複合施設です。道路上空を活用して隣接する二つの街区のビルを一体的に建替えるとともに、歩道やデッキ等の周辺公共施設整備を行いました。当社は実施設計、各種申請、施工、企画支援と、本開発の周辺地域のエリアマネジメントを行っています。

基本設計 = 日本設計  
設計・施工=竹中工務店

## あべのハルカス・てんしば

高さ日本一の「あべのハルカス」と、近傍に完成した広大な芝生広場をもつ公園リニューアルプロジェクト「てんしば」は、周辺エリアに大きなインパクトをもたらしました。いずれも当社で企画支援、設計・施工したもので、エリア全体の集客と魅力の向上に貢献しています。

あべのハルカス  
設計・監理=竹中工務店  
外装デザイン=竹中工務店+ペリクラーク ペリアーキテクト  
施工=竹中工務店(JV)  
てんしば  
設計・施工=竹中工務店

## うめきた開発

JR大阪駅の北側で、1期・2期を合わせて区域面積24ha、総開発面積100万m<sup>2</sup>を超えるまちづくりを進めています。グランフロント大阪(1期)で当社は企画・設計・施工及び共同事業者としての役割を担いました。

### グランフロント大阪(1期)

先行開発区域約7haで、延床面積約57万m<sup>2</sup>の大規模複合開発です。2013年に竣工しました。

基本設計=日建設計、三菱地所設計、NTTファシリティーズ  
実施設計=日建設計、三菱地所設計、NTTファシリティーズ  
竹中工務店、大林組  
施工=竹中工務店(JV)

### うめきた2期

開発事業者が、中央の都市計画公園(4.5ha)と民間宅地を一体的に整備・開発・運営する新しいまちづくりプロジェクトです。

コンソーシアム  
三菱地所、大阪ガス都市開発、オリックス不動産、関電不動産開発、積水ハウス、竹中工務店、阪急電鉄、三菱地所レジデンス、うめきた開発特定目的会社

## 大手センタービル

当社が東京・大手町に手掛けた開発事業プロジェクトです。利便性の高い立地条件を備え、大規模改修工事により、快適なビジネス環境を提供しています。

設計・施工=竹中工務店

## 400/430 California

米国サンフランシスコ市金融街の中心部に建つ本物件は、ランドマーク指定を受けた部分の保存・耐震改修を含む全面リニューアルという当社の特性を生かした「Value Add」型プロジェクトです。

※アンダーラインの物件は、SPCなどへの事業参画及び自社開発としての取り組みです



# お客様の課題に最適なソリューションを

市場変化に追従したスピーディーな対応、高度な建物環境、様々な安全・安心が求められています。当社は、お客様のニーズに対し、企画段階から計画・設計・施工・アフターケアまでトータルエンジニアリングでお応えします。



## 木造・木質建築

当社は、技術革新を通じて国内の木材利用を促し、脱炭素社会の実現と、地方創生につながるまちづくりを進めています。木材を積極的に利用して建てられる都市のビルは“都市木造”と呼ばれ、森とまちをつなげる役割になることが期待されています。当社が開発・推進する、耐火集成材「燃エンウッド®」、木質耐震補強技術「T-FoRest®」、CLT利用技術などの先進的な木材利用技術を通じて“都市木造”を推進し、森とまちをつなぐ持続社会を実現します。これからも、豊富な木造ソリューションを通じて、お客様の事業やサステナブル社会の実現に貢献します。

当社は燃エンウッドやCLTの技術を適材適所に活用し、鉄骨やコンクリートも合理的に活用して耐震性能を確保した木造ハイブリッド建築「Alta Ligna Tower」(地上20階建)を高層木造建築構想として提案しており、2025年までに実現することで、中高層木造建築市場の更なる拡大を図ります。すでに地上17階建木造賃貸オフィスビルの検討が始まっています。

“都市木造”の広がりにより当社が提唱する森林資源と地域経済の持続可能な好循環に向けた活動である「森林ブランドサイクル®」を更に推進し、お客様をはじめとするステークホルダーとともに課題解決を図っていきます。

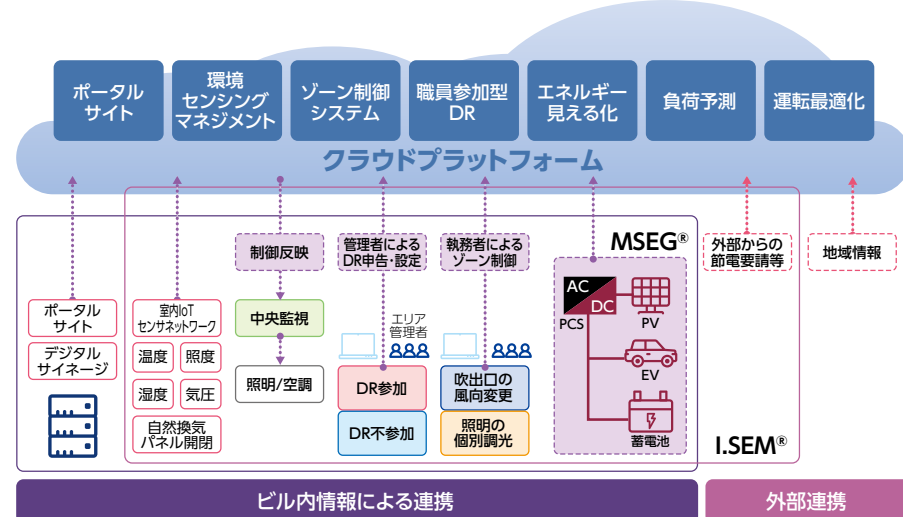


高層木造建築モデル Alta Ligna Tower



## IoTとエネルギー管理の活用で省エネルギーと快適性を両立

横浜市役所では、クラウド基盤上にエネルギーの見える化や負荷予測、建物運転の最適化など、高機能なBEMS(Building Energy Management System)機能を実現しました。また、室内にIoTセンサーネットワークを構築し、居住域の環境把握や外装自然換気パネルの状態把握(特許出願済)及びそれらの見える化を行うとともに、パーソナル制御機能の提供により、執務環境の更なる快適性の向上と職員参加型の省エネ活動を促し、省エネルギー性と快適性の両立を目指しています。システムの構築にあたっては、サイバーセキュリティを考慮しつつ、インターネットへの接続を実現しています。



横浜市役所



## BCP・リスク対策

自然災害の多発や感染症の世界的流行を受け、BCP・リスク対策への関心が高まっています。当社は地震・水害などの災害や感染症、ライフラインの途絶、更に防犯・情報セキュリティなど多角的な視点でリスクに強い建物を提案します。改修や建替えなどのプロジェクトをまだ具体的に検討されていないお客様に対しても、BCPの専門チームがハード・ソフトの両面でサポートします。当社はお客様のパートナーとしてリスク対策の様々なニーズに応え、災害に強い建物の普及を通じてレジリエントなまちの実現に貢献します。



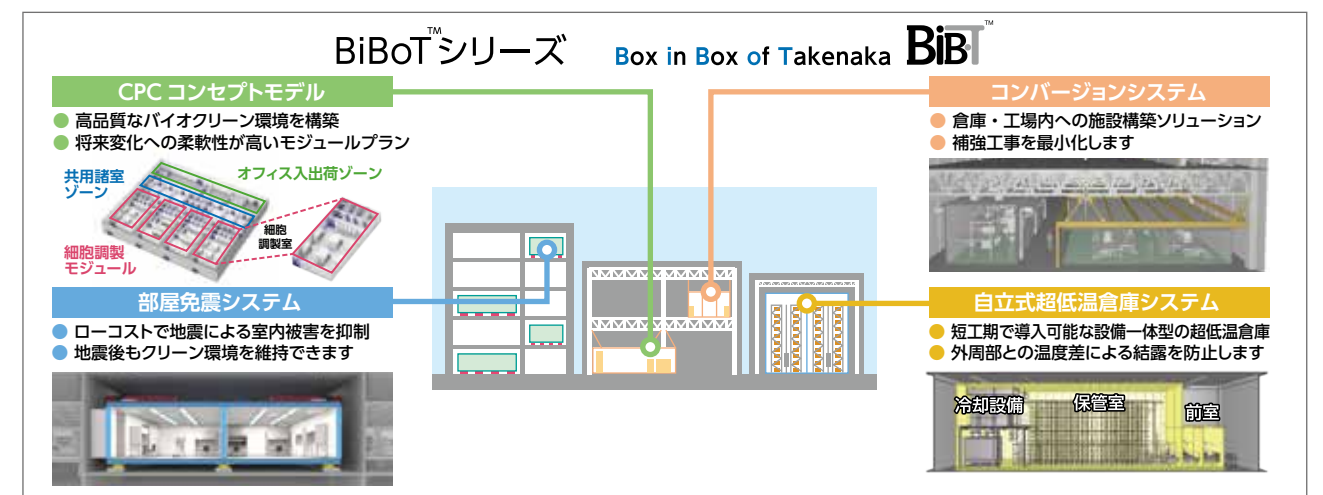
水害対策(起伏式防水板)の実施事例



## 建物内に高機能施設をスピード構築するBiBoT™シリーズ

高度化する社会ニーズの変化に対応するため、先端分野の研究・製造施設では、最新の生産ラインの導入や施設の拡充・高機能化等へ迅速かつ柔軟に対応することが求められます。当社は、クリーンルームなど高機能施設のスピード構築を実現する、新しいパッケージ商品「BiBoT (Box in Box of Takenaka) シリーズ」を展開しています。本シリーズは「CPC\*コンセプトモデル」(特許出願済)「部屋免震システム」(特許出願済)「自立式超低温倉庫システム」(特許出願済)「コンバージョンシステム」のメニューにより、再生医療、バイオ医薬、電子デバイスなどの研究・製造施設だけでなく、医療施設、データセンターなど幅広い用途を対象に、お客様の多様な施設ニーズに応えています。倉庫や工場などの遊休施設の有効活用にも適しています。

\*CPC:細胞培養加工施設



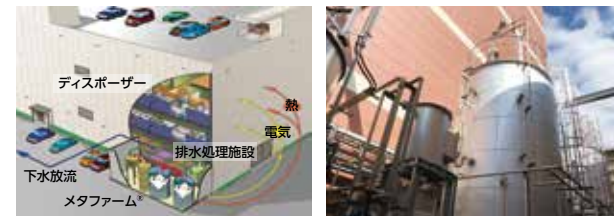


# お客様の課題に最適なソリューションを

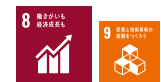


## 資源循環分野への取り組み

企業にとって、SDGsへの対応やサーキュラー・エコノミーの推進が喫緊の課題とされる中、資源循環分野の新技術「メタファーム®」は、生ごみを建物・敷地外に搬出することなくエネルギー化するシステムとして注目されています。2014年開業のあべのハルカスでは、3トン/日のごみ量を対象として導入され、現在も安定稼働しています。この実績を踏まえて小型化した2事例目として、ショッピングセンターにおける1トン/日級処理機が、2021年12月より稼働予定です。今後も、生ごみのリサイクル率向上・省CO<sub>2</sub>を通じてお客様のニーズに応えます。

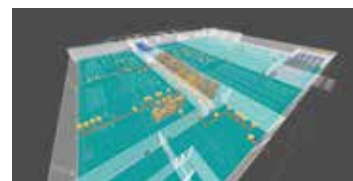


商業施設導入イメージ  
「環境配慮型ショッピングセンター」メタファーム®



## 工場・倉庫内の自動化・省人化による生産性の向上

製造・物流施設では、労働力不足への対応や生産性向上を図るため、自動化・省人化設備の導入やIoTの活用が進んでいます。当社は、定量的かつ客観的なデータ分析と作業時間の削減効果予測など、独自のロジスティクスエンジニアリングで自動化・省人化を実現します。また、長年培ったノウハウを建築・設備計画に生かすとともに、最新技術を導入することで、「ニューノーマル時代」に向けた、更なる生産性向上、無人化の実現に貢献します。



作業性分析3Dシミュレーション



自動倉庫・搬送システム納入事例(左右とも)



## 時代とともに歩むスタジアム・アリーナ

当社は、5大ドームなどの大規模スポーツスタジアムからイベント中心のアリーナまで、数多くのスポーツ・集客施設を手掛けてきました。これらの施設がいつまでも利用されるよう、当社は、感染症対策などの社会ニーズの変化や、収益性向上に向けた多目的利用、進化し続ける通信技術などに対応するソリューションを用意しています。更に、これらの施設を防災拠点とした周辺地域全体の安全性向上や、複合的なまちづくりによる地域活性化にも貢献していきます。当社は今後も、お客様、時代とともに歩むスタジアム・アリーナを提供していきます。



東京ドームシティ  
パナソニックスタジアム吹田 (2020年日本建築学会賞(作品)受賞)



## 放射線防護技術

近年、医療分野などで放射線の利用が拡大し、放射線防護技術の重要性が高まっています。当社は、いち早くこの分野の技術開発に取り組み、鉛を使わない天然無機素材の人にも環境にもやさしい放射線遮蔽ボード「RadBoard®」(特許出願済)を開発しました。この技術は、環境負荷が小さくリサイクルも可能で、山形大学医学部東日本重粒子センターをはじめ様々な施設に適用されています。

先端医療施設においては、放射線を利用する施設が多くなることが予想されており、医療施設の特性にマッチするよう、技術開発を継続しています。今後も豊富な実績やソリューションを通じて、環境に優しく安全に配慮した医療施設の実現に貢献していきます。



山形大学医学部東日本重粒子センター



「RadBoard-X」を適用したCTシミュレーション室

# New Normal- With/Afterコロナ時代に向けた取り組み

## 未来へ導く7つのヒント

新型コロナウイルス感染拡大を受けて、これまで当社は医療施設を始めとする様々な施設に対し、提案や対策を行ってきました。今後もコロナとともに生きる状況で、当社は何ができるのか? 都市生活の中で欠かすことのできない「働くための空間」をテーマにIT、まちづくり、建築設計、ワークプレイス、設備などのエキスパートがWithとAfterの2つの視点で仮説と施策を検討しました。その結果を「With/Afterコロナの世界で、働くための空間を切り拓くには、~未来へ導く7つのヒント~」にまとめ、社外HPに公開しました。様々なステークホルダーの課題の整理と解決に向けた具体的な取り組みを進めています。



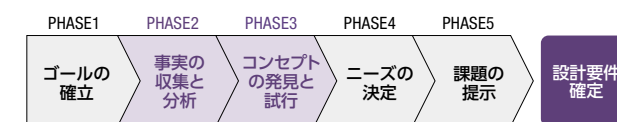
ワークショップの様子

インデックスシート

## 「働き方」や「働く場」を再構築する

新型コロナウイルスの感染拡大により「働き方」と「働く場」に対する価値観は大きく変化し、その選択肢は瞬間に多様化しました。仕事の内容に適した場を選択する考え方にシフトした今、リアルなオフィス空間には新たな役割が求められています。当社は、コロナ収束後においても、企業価値向上に貢献するオフィスをお客様とともに考え、解決策を提供していきます。

### リアルオフィス再定義の5ステップ



リアルオフィスを「オフィス機能」×「人数」×「余裕度」で再定義する。

コロナ禍により変化した価値観  
①必要機能の見直し、②出社率、③ソーシャルディスタンスをPHASE2,3で探る。

## お客様の課題を解決する5つのソリューション

コロナ禍におけるお客様の課題とソリューションを5つに整理しました。既存技術による解決を図るだけでなく、新規技術の開発も進めています。

### ① 空気をきれいにする

気流シミュレーションにより、計画段階で建物内における換気の状態を見える化し、空調制御の最適化を図ります。

### ② 働き方・施設の使い方を変える

ワークショップなどを通して、With/Afterコロナ時代の新たな働き方、施設の使い方をお客様とともに検討します。



オフィスアクティビティカード®

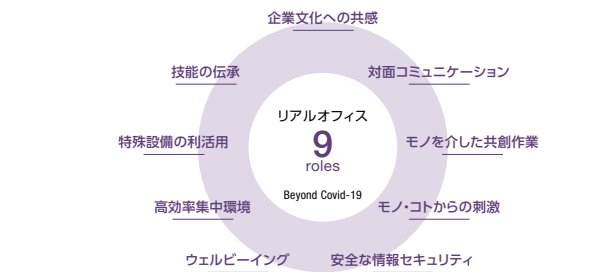
### ③ 人との接触を減らす

人の流れを予測する技術やリアルタイム計測技術を活用し、接触機会をコントロールするプランニングを提案します。

### ■ 働き方・働く場の変化



### ■ リアルオフィスに求められる9つの役割



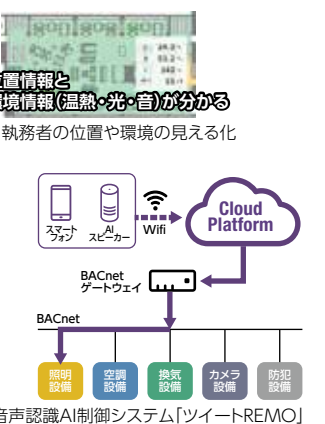
### ④ 集密を避ける

執務空間における人の位置や環境情報を見える化し、感染リスクを低減します。フリーアドレスの座席選択もサポートします。



### ⑤ ウイルスとの接触を減らす

IoTやクラウド技術を活用して、モノ(機器等)に触れずに遠隔で、施設内外の機器を集約して制御します。



音声認識AI制御システム「ツイートREMOJ」



# オープンイノベーションで技術開発を加速

世の中の技術の進歩は目覚ましいものがあります。お客様の多様なニーズに応えるために社外の技術・ノウハウを積極的に活用し、技術開発を加速する必要があります。当社では建設分野のデジタル化推進や未来社会・環境分野の技術開発推進のため積極的なオープンイノベーションを推進し、社会に貢献していきます。



<https://www.takenaka.co.jp/rd/>

## オープンイノベーションの推進

従来の建設業の枠にとらわれず、広く事業価値の拡大を狙いとした活動を推進しています。独自の強みをもつスタートアップ企業を当社がヒト・モノ・カネなどのリソースやノウハウ、ブランドを提供することで支援するアクセラレータ活動や研究活動域を広げ、新たな価値創造を目的とした新拠点設立などによる企業価値の向上を推進しています。

### TAKENAKAアクセラレータ

当プログラムは、スタートアップ企業との協業で新たな事業の創出を加速させることを目的としています。第1回目は株式会社ゼロワンブスターと共同で「[まち]でつなぐ、[未来]へつなげる」をテーマに、人と人、人とまち、過去と未来、リアルとバーチャル、仕事と生活、人と技、地方と都市などをつなぐことで、革新的な価値の想像をオープンイノベーションで目指しました。



成果発表会

### COT-Lab™大手町

大手町にあるコラボラティブスペース「Inspired.Lab」内にオープンラボを開設しました。今まで竹中技術研究所などの当社施設を中心に、またそこで働くメンバーにより研究開発を進めてきた様々な社会課題への取り組みについて、オープンイノベーションにより未来のサステナブル社会につなぐ「まちづくり事業」として具現化することを目的とします。



COT-Lab™大手町

## 建設分野のオープンイノベーション

社会の変化や人口減少からも、建設分野のデジタル化の推進は急務となっています。その手法として、オープンイノベーションは有効な手段ではあるが、こちらから、建設業を変えたいという夢を一緒に実現しようという姿勢で臨まないと、建設業全体が社会から取り残されることになる可能性があります。デジタル化とオープンイノベーション推進のために、実施しているいくつかの施策を紹介し、業界全体や建設分野を変える技術を持った企業の方々と一緒に夢を実現している状況を紹介いたします。

### 建設ロボットの業界連携

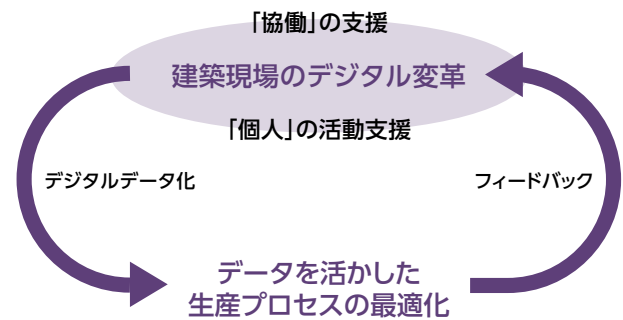
当社は他社に呼びかけ、業界3社による技術連携「建設RX\*プロジェクト」の活動を開始しました。技術連携の基本合意書に基づき、技術開発や相互利用を積極的に進めるとともに、こうした取り組みを広く業界全体に働きかけていくことにより、建設業が抱える諸課題の解決に尽力し、社会に貢献します。

\*RX: ロボティクストランスフォーメーション  
デジタル変革(DX)になぞらえ、ロボット変革(Robotics Transformation)の意



### 建設現場のデジタル変革

当社とNTTドコモは、建築現場における「人」の活動や建築現場という「協働」の場での情報伝達をデジタル技術で支援することで、「デジタル技術を活かした建築現場の業務改革」による生産プロセスの最適化を実現します。



## 環境・未来社会分野のオープンイノベーション

当社が今後重点的に取り組むべき分野として、未来分野や環境分野の技術開発があげられます。しかしながらこれら分野は建設コア分野と違い当社が必ずしも得意とする分野ではありません。そこで社外の研究機関や大学などその分野の研究者・技術者と連携し、社会の動きに遅れることなく、迅速に研究成果を出していくことが必要です。数あるオープンイノベーションの中から、既に研究成果を上げたもの、現在研究途中であるもの、そして今、研究に着手したものを事例を交えて紹介します。



### まちの可視化(ソーシャルヒートマップ®)

SNSの投稿内容をAIで分析し、まちの質の評価\*を可視化するツールです(特許出願済)。まちの新たな魅力や課題点の抽出、イベントや再開発前後の影響度評価、商圈分析といった利活用シーンを想定しています。

※右図に示すように、例えば、人がまちでポジティブ/ネガティブな感情を持ったエリアを評価すること



ソーシャルヒートマップ®



### 宇宙フロンティア

今、有人月面探査、更に宇宙滞在や宇宙旅行など、これまで夢だった領域の実現に向けて、世界が大きく動いています。そこで、竹中技術研究所では、持続可能な未来の暮らしに向けて、社外との共同研究を進めながら、3つの研究開発領域に挑戦しています。これらにより我が国の宇宙分野の技術力向上に貢献していきます。



### 生物多様性・グリーンインフラ(調の森 SHI-RA-BE®)

社内外の研究者・技術者や地域の人々との協働を積極的に推進し、オープンイノベーションを誘発しながら、自然を活かした多目的で革新的なグリーンインフラ・生物多様性保全分野の研究開発を進めています。これら活動を通じてサステナブル社会の実現に貢献していきます。



竹中技術研究所 調の森 SHI-RA-BE®



## 国内主要グループ会社の事業活動

まちのライフサイクルのあらゆるステージにおいて、当社をはじめグループ各社は、お客様の多様なニーズにお応えします。

### ■ 竹中土木

人と環境に優しいものづくりで「輝く企業」へ

竹中土木は竹中グループの土木分野を担う会社として1941年に設立、今年で創立80周年を迎えます。「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」という竹中グループの経営理念のもと、安全・安心な社会資本の整備を通じ、人々の暮らしが豊かになるよう努めています。また、近年の社会環境を踏まえて、国土強靱化や防災・減災への取り組み、そして環境共生の社会基盤を構築していくことを念頭に、社会資本ストックの長寿命化やICTを活用した生産性改革などで企業価値の更なる向上を目指しています。2016年には創立75周年を機に「2025年ビジョン」を策定。経営層と従業員が目指すべき会社像の想いを一つにし、事業基盤及び技術力の強化、そして職場環境の整備やワークライフバランスの充実などの従業員満足度の向上を目指した取り組みを進めています。

また、「人と地球の架け橋に」というコーポレートメッセージを全従業員が共有し、時代の潮流を敏感に捉えて新たな分野にチャレンジすることで持続的な発展を図り、社会的責任を果たしながら「魅力溢れる輝く企業」へ進化していきます。



新東名高速 葛葉川橋



中部横断道 東根熊トンネル他1工事



八戸市 是川太陽光工事

### ■ 朝日興産

「思いやりとしなやかさ」で最適な商品とサービスを提供する

朝日興産は、国内外の調達ネットワークから良質な建設資材と関連商品を提供し、独自の専門技術による施工を行うことで作業所の安全かつ円滑な運営に貢献しています。また、建築技術を融合した緑化工事も数多く手掛け、街の景観づくりや庭園に関する企画から施工・維持管理まで、一貫したサービスを提供しています。今後は、商社・工事・調達の3つの機能を核とした専門集団として新たな事業領域にもチャレンジし、「思いやりとしなやかさで、ともに未来を拓き、未来を生きるパートナー」として竹中グループの成長を担う「存在価値の高い企業」を目指していきます。



愛知県国際展示場内：緑化柱ユニットVFL

### ■ TAKイーヴァック

人に地球に優しい「環境づくり」

TAKイーヴァックは、電気・給排水・空調設備のトータルエンジニアリングを通じ、より良い環境空間を創造する総合設備会社です。企画提案から工事施工、アフターサービスに至るまで、一貫した高いエンジニアリング力を発揮し、あらゆるニーズに適合する設備環境を提供しています。また、脱炭素社会の実現に貢献するとともに、執務環境の快適性を向上させるため、新築工事における最新の省エネ技術の導入や、ネット・ゼロ・エネルギービル（ZEB）化改修などの取り組みを進めています。「お客様が求める人に地球に優しい環境づくり」を提供する竹中グループのエンジニアリング会社として、より良い環境空間の創造とサステナブル社会の構築に貢献していきます。



目黒セントラルスクエア

### ■ アサヒファシリティズ

お客様の建物価値と安全を守る

アサヒファシリティズは、1969年の設立以来、全国のオフィス、病院、ホテル、商業施設など様々な建物において、お客様の最良のパートナーとして、建築及び設備の維持保全、警備、清掃などを提供するビルマネジメント事業、不動産の収益を向上させるプロパティマネジメント事業、損害保険を中心とした保険代理事業などをワンストップで提供しています。建物は、その機能を長期にわたって発揮してこそ優良な資産となります。私たちは、「建物管理のプロ」として、「技術力、対応力、提案力」を発揮し、更に、最先端のICTによる最適化を実践することで、建物管理に求められる高度化・多様化したニーズに応え、省エネルギーや廃棄物削減などの環境保全に取り組み、建物をお客様の優良な資産として見守り続けます。これからも、最良の建物管理と最適なソリューションを提供し、より良い仕事を通じ、人々の暮らしを守り、まちを未来へと繋いでいきます。



屋上設備点検



設備集中監視



発電機点検

### ■ TAK-QS

精度の高い積算情報の提供により建築生産を支える

TAK-QSは、竹中工務店の建築積算を担当する会社として、2003年に設立されました。主に竹中工務店から仕上げ・躯体・鉄骨・設備の積算業務などを受託し、近年は竹中グループ外からも積算業務を受託しています。東京・名古屋・大阪の3か所に事業部を設置し、約100名の社員が最新の積算見積システムを駆使して積算サービスを提供しています。今後は建設産業のデジタル化に対応しながら、建物のあらゆるステージで常にスピード感のある精度の高い積算情報の提供を続けていきます。また、積算エンジニアとして培った技術力をもとに業務領域の拡大を進め、グループ全体の品質や生産性の向上を目指しています。



図面確認をしながら積算方針の打合せ

### ■ 裏磐梯高原ホテル

お客様に“とっておきのひと時”をご満喫いただけるホテル

磐梯山の北側に位置する当ホテルは、1958年の創業以来、多くのお客様にご愛顧をいただいています。2009年以降、温泉の開湯、温浴棟の増築、客室の洋室への改修など、竹中工務店の設計提案により新たな魅力を付加し、2014年に「BELCA賞」、2017年に「JIA25年賞」を受賞するなど建築作品としても高く評価されています。加えて、温かみのあるホスピタリティや地元の食材を活かした最高のお料理などのおもてなしの質の向上により、更なるご愛顧をいただいています。これからも磐梯山の宝と称されるホテルからの眺望とともに、お客様にご滞在をお楽しみいただきながら、“とっておきのひと時”をご提供していきます。

※当ホテルは、当社関連会社であるアサヒプロパティズの完全子会社です。



弥六沼遊歩道からのホテル外観



# サステナブル社会に向けた2020-2022年活動計画

当社は、建築・まちづくりを通じ、サステナブル社会を実現するため、「地球環境」「地域社会」「お客様」「従業員」「協力会社」といったステークホルダーの期待に応えるための目標を「想い」という形で捉えています。

この「想い」を実現するために、「竹中グループCSRビジョン」及び「グループ成長戦略」を踏まえ、当社が企業活動(事業・非事業)を通じて取り組むべき課題を2020年に重要課題(マテリアリティ)として特定するとともに、「サステナブル社会に向けた2020-2022年活動計画」として、実施方針に基づくKPI及び目標値を設定しました。

2020年は、3か年計画の初年度として、このKPI及び目標値達成に向けた取り組みを始めました。この内容について、2020年の実績を示すとともにP37以降で主な活動について報告します。今後は、「想い」を実現するための「サステナブル社会に向けた2020-2022年活動計画」を、ステークホルダーや有識者の方々との対話を通じて、更に磨きをかけ、「まちづくり総合エンジニアリング企業」として、サステナブル社会の実現に貢献していきます。



重要課題グループ	重要課題(マテリアリティ)	影響範囲				方策	指標(KPI)	目標値	実績	目標値		貢献するSDGs
		ES	C	E	S			2020年		2021年	2022年	
								2020年		2021年	2022年	
持続可能な建築・まちづくり P15~16, P37~38	環境(ゼロエネ・脱炭素)・社会に配慮した建築とサービスの展開					木造・木質建築の推進	木造・木質建築選定プロジェクト件数	11件	9件	13件	15件	
						ZEB・エネルギーマネジメントの推進	ZEBプロジェクト/エネルギーマネジメント提案件数	10件/10件	13件/24件	15件/13件	20件/15件	
						ウェルネス建築の推進	ウェルネス建築認証取得件数	5件	5件	7件	9件	
	サステナブルなまちに向けた社会システムの創出					まちづくりの活動フィールドを設定し、社会課題解決に向けた具体的な活動を実施*1	社会システム実証等活動数	9件	9件	10件	10件	
						社会システムの構築による事業化の推進	事業化数	3年で2件以上	1件	3年で2件以上		
						まちづくりの起点となるプロジェクト創出	プロジェクト提案件数	3件	5件	5件	5件	
建築とまちのレジリエンスの向上					災害対策・支援メニュー拡充と適用	メニュー拡充(開発・適用件数)	拡充メニューの検討	拡充分野として4件	開発継続4件うち2件試行開始	開発4件・適用開始4件		
建築の長寿命化とストックの維持・活用推進					価値を生み続ける資産経営・施設運用のための調査・提案技術の強化	推進要素技術適用件数 長寿命化に貢献する提案件数	調査研究 提案資料検討	要素技術抽出 提案資料検討	3件 2件	6件 4件		
伝統文化の継承と価値再創出					伝統建築・歴史的建築物の保存・再生・活用の推進	伝統建築保存再生プロジェクト実施/取組件数	3件/5件	5件/6件	3件/5件	3件/5件		
環境との調和 P13~14, P39	事業活動におけるCO2削減					作業所・事業所におけるCO2削減の推進(スコープ1・2)	施工時原単位 オフィスエネルギー消費削減率(対前年比)	10.1CO2t/億円 1%以上	9.9CO2t/億円 ▲0.5%	9.9CO2t/億円 1%以上	9.7CO2t/億円 1%以上	
	今後の気候変動への対応					設計   気候変動への適応計画ガイドラインの策定*1 施工   気候変動に対応する施工技術の開発・実施*1	進捗度	設計   情報収集 施工   要素技術調査検討	情報収集・課題整理 要素技術調査検討	予測・企画 気温上昇への対応技術開発実施	適用計画ガイドライン策定 気温上昇への対応技術試行開始	
	生物多様性への配慮					生物多様性向上プロジェクトの推進	生物多様性向上プロジェクト数	10件	10件	12件	15件	
	資源循環と廃棄物削減					資源循環・廃棄物削減に向けた設計・調達段階からの検討 新築工事の廃棄物リサイクルの推進	建設副産物リサイクル率(容積比)	93.0%	94.9%	93.5%	94.0%	
技術革新と共創 P15~16, P39	先端技術開発とイノベーションの推進					ロボット・AI化・デジタルデータ活用の推進/新材料等の先端技術開発	適用・実用化件数	10件	10件	12件	15件	
	共創活動の推進*2					多様な人々が交流する場や仕組みづくり エリアマネジメントやコミュニティデザイン活動により、総合的なまちづくり活動を実施	交流の場づくり・イベント数 エリアマネジメント、コミュニティデザイン活動数	実績の把握 実績の把握	4件 5件	4件以上 5件	4件以上 5件	
働き方・生産性改革 P17~18, P40~41	労働時間等の適正な労働条件の担保					適切なプロジェクト工期と人員の確保 フロントローディングによる着工後業務の削減	作業所閉目標準達成率	4週7閉所 100%	4週7閉所 28.9%	4週8閉所 100%	4週8閉所 100%	
	持続可能で生産性の高い建設プロセスの追求					工業化や高効率構工法の設計取り込みによる労務工数の削減 BIM・デジタルファブリケーションによる効率化と手戻りの削減	施工高効率 施工高管理効率	1.81万円/人・時間 11.6万円/人・時間	1.78万円/人・時間 9.7万円/人・時間	1.88万円/人・時間 12.1万円/人・時間	1.96万円/人・時間 12.6万円/人・時間	
	多様な人々の健やかで働きがいのある環境の実現					ワークライフバランス(WLB)推進による多様な働き方の実現	従業員満足度	3.60以上	3.55	3.65以上	3.70以上	
						ダイバーシティの推進	女性管理職比率	4.5%以上	4.5%	5.0%以上	5.5%以上	
						健康経営ガイドライン等を踏まえたPDCAマネジメントの実施	健康経営度調査総合評価点	500点以上	537点	500点以上	500点以上	
	差別とハラスメントの撲滅					ハラスメントの環境調査・教育啓蒙の実施	教育実施率	100%	100%	100%	100%	
人材の確保と育成・定着					【従業員】環境変化に応じた若年層社員教育の見直し 【協力会社】協力会社と一体となった入職活動と労務賃金見直し 技能労働者の育成・技能継承施策の展開	新卒者離職率(入社3年時点) 新規入職技能労働者数	3.5%以下 720人	3.40% 888人	3.0%以下 720人	3.0%以下 720人		
着実な生産プロセス P42	高品質で安全な建築とサービスの提供					協力会社を含む設計段階からの品質づくり込み	重大な品質問題発生件数	0件	1件	0件	0件	
	公衆災害や労働災害のない作業所の実現					安全先取り計画の推進/多様化する作業員の知識・意識の向上	重大な公衆災害・労働災害発生件数	0件	1件	0件	0件	
	持続可能なサプライチェーンの実現					CSR調達ガイドラインの周知と運用 環境を考慮したグリーン調達の継続	周知・適用率 重点グリーン調達品目採用数/1プロジェクト	周知率100% 10品目以上	周知率100% 設計15.4品目/作業新13.5品目	適用率70% 10品目以上	適用率100% 10品目以上	
健全な組織基盤 P43~44	信頼あるガバナンスの構築 コンプライアンスの徹底 情報開示や対話推進による組織の透明性の向上 リスクマネジメントの確立 情報セキュリティの確保 人権の尊重					企業倫理中央委員会・コンプライアンス/ 危機管理委員会での統制・管理	重大なコンプライアンス事案の発生数	0件	0件	0件	0件	

ES: 環境・社会 C: お客様 E: 従業員 S: 協力会社

\*1 方策の表現を改めました。 \*2 [コミュニティ参加とパートナーシップ]から表現を改め、方策と指標(KPI)を見直しました。



## 持続可能な建築・まちづくり



事業活動を通して社会の課題を解決し、社会からの信頼を得ながら成長し続けるために、地域社会や地球環境に配慮しながら、サステナブルなまちに向けた社会システムの創出やレジリエンスの向上により、持続可能な建築・まちづくりを進めています。

## 環境(ゼロエネ・脱炭素)・社会に配慮した建築とサービスの展開

### ■ 木造・木質建築の推進

当社は、耐火集成材「燃エンウッド®」(特許登録)や、様々なCLT(直交集成板)利用技術などを開発し、木造・木質建築の普及と国産木材の活用に取り組んでいます。また、木材の利用促進により、山林の保全とともに林業・地域の活性化につながるという、森林資源と地域経済の持続可能な好循環「森林ブランドサイクル®」を提唱し、活動しています。

2020年2月に竣工した単身者用賃貸住宅フラッツウッズ木場(東京都江東区)は、世界的な都市建築の木造化の流れの中、高い耐火・耐震性能が求められる日本の高層建築に「木造」という新たな選択肢を与えるパイロットプロジェクトです。鉄筋で補強した燃エンウッド梁、屋外で使用できる燃エンウッド柱、CLTブロックを積層させた耐震壁など、当社が開発した最先端技術の有効性を実証しています。完成時には「体験会」を開催し、数多くのお客様に採用した様々な技術をご見学いただくとともに、木質空間の心地よさや森林ブランドサイクル活動を体験いただきました(2020年グッドデザイン賞受賞)。

関連項目:P27 エンジニアリング > 木造・木質建築



フラッツウッズ木場「体験会」

**KPI** 木造・木質建築選定プロジェクト件数  
実績:9件(目標:11件)

### ■ ZEB・エネルギー管理の推進

脱炭素社会に貢献するZEB(ゼロエネルギー・ビル)、エネルギー管理システムの拡大を推進しています。2020年1月に竣工した横浜市役所の新庁舎では、全周からの自然給気とボイド利用自然換気、天井放射冷暖房、デンカント空調(特許登録)、地中熱利用、燃料電池など様々な省エネ技術を導入し、ZEB-Ready®を達成(計画値)しました。エネルギー管理では、職員の参加が可能なデマンドレスポンスシステムを導入しました。

また、2017年に竣工したオフィスビル、オペテージビル(大阪市)では、ボイド利用の自然換気(特許登録)、放射併用パーソナル空調システム、中温熱源を利用した冷媒自然循環システム、エネルギー管理などの採用により、運用実績でZEB-Readyを達成しました。

\*ZEB-Ready:省エネルギーにより、エネルギー消費量を標準の50%以下とした建物

**KPI** ZEBプロジェクト提案件数  
実績:13件(目標:10件)

**KPI** エネルギー管理提案件数  
実績:24件(目標:10件)

関連項目:P27 エンジニアリング > IoTとエネルギー管理の活用で省エネルギーと快適性を両立



横浜市役所

オペテージビル

詳細はWEBに掲載

・サステナブルなまちに向けた社会システムの構築\*1  
・建築の長寿命化とストック維持・活用推進  
上記についてはWEBを参照ください。\*1の詳細はP15-16に記載しています。

② <https://www.takenaka.co.jp/enviro/objectives/01/>



### ■ ウェルネス建築の推進

関連項目:P27 エンジニアリング > IoTとエネルギー管理の活用で省エネルギーと快適性を両立

人が健康になる空間を目指して、ウェルネス建築を推進しています。改修して認証を取得した事例として、竹中工務店東京本店(米国のWELL認証でゴールド取得)では、新築当時の光庭を中心としたワークプレイス、自然採光・自然換気、吹き抜け階段に加え、昇降式デスク、集中スペースなど、個人がアクティビティに合わせて場所を選択するワークスタイル「ABW(Activity Based Working)」への対応、屋内の緑化・水景の導入、社員食堂メニューの多様化や健康食の推進、リラックス空間としてラウンジ新設などを行いました。また、竹中技術研究所改修(CASBEEウェルネスオフィス認証でSランク取得)では、ABWを進化させ、大階段と吊り階段により立体的に一体空間を構築し、コミュニケーションの誘発と歩行促進などを実施しました。



水と緑を配置したワークラウンジKOMOREBI(竹中工務店東京本店)



大階段と吊り階段による立体的な一体空間(竹中技術研究所)

**KPI** ウェルネス建築認証取得件数(WELL認証、CASBEE-WO認証)  
実績:5件(目標:5件)

## 建築とまちのレジリエンスの向上

### ■ 災害対策・支援メニュー拡充と適用

相次ぐ大規模な水害、将来の気候変動リスクを踏まえレジリエントな社会の実現がますます重要になっています。当社では地震だけでなく様々な災害に強い建物を提供できるよう、対策・支援メニューの拡充を図っています。2020年は敷地の災害リスク評価を積極的に実施し顧客の課題整理を支援するとともに、特に水害対策については対策メニューを整理することでリスクの把握から対策まで一貫して対応できる体制を整え、顧客の

災害・BCP対策づくりを支援しました。また水害対策のほか、スマートバイオ施設のリスク評価、スタジアム・アリーナの災害対策など、建物のニーズに合わせた技術開発を継続しています。

**KPI** メニュー拡充(開発・適用件数)  
実績:拡充メニューを4件特定し、開発を開始  
(目標:拡充メニューの検討)

## 伝統文化の継承と価値再創出

### ■ 伝統建築・歴史的建築物の保存・再生・活用の推進

当社では伝統建築・歴史的建物について新たな付加価値を創出する取り組みを実施しています。従前に培ってきた技術の継承を主体とした伝統建築の新築・保存・復元を継続するとともに、文化財に相当する既存の歴史的建物については機能改善や新用途を伴う再生・活用を実現する設計・施工に加え、設計ソリューションを駆使したコンサルティングやアドバイザーにも対応しています。

更にこれら経験を活かし、所有者から建物を一括で借り受けるマスターリースなど、事業参画を選択肢に加え、歴史的建造物を活用する「レガシー活用事業」をスタートしました。初弾として2018年に東京の九段下に立地する登録有形文化財「旧山口萬吉邸」のリニューアルを完了し、2020年には東京の新橋に立地する登録有形文化財「堀ビル」を、イノベーションを誘発するシェアオフィス空間として運用する事業に着手しています。

関連項目:P22 建築 > 魅力再生®



堀ビル外観

**KPI** 伝統建築保存再生プロジェクト実施/取り組み件数  
実績:実施件数5件/取り組み件数6件  
(目標:実施件数3件/取り組み件数5件)



## 環境との調和

環境方針のもと、脱炭素社会、資源循環社会、自然共生社会の実現に向け、ISO14001の認証を受けた環境マネジメントシステムに則って環境貢献活動を推進しています。



## 生物多様性への配慮

### 生物多様性向上プロジェクトの推進

当社が取り組む作品全てで生物多様性に配慮することを目指し、特に先進的なプロジェクトをパイロットプロジェクトとしてつくり込み選定しています。地域の自然植生や土地利用の歴史への配慮、生態系ネットワークの創出、設計段階から竣工後の維持管理・運営段階まで考慮したステークホルダー参画による共創を選定の指標に、今後適用するプロジェクト数の増加を図っていきます。

**KPI** 生物多様性向上プロジェクト数  
実績:10件 (目標:10件以上)

関連項目:P32 技術開発 > 生物多様性・グリーンインフラ(調の森 SHI-RA-BE\*)

● 茨木市新市民会館  
大阪府の茨木市役所の隣、市の中心部にある公園に新しい市民会館をつくるプロジェクトです。地元市民の皆様とワークショップを行いながら、市民会館や公園の利活用について議論を深めており、既存樹木を活かし、また隣接する道路・水路・緑地と連携したデザインを進め、街区を越えて育てる広場の取り組みに挑戦しています。

## 資源循環と廃棄物削減

### 資源循環・廃棄物削減に向けた設計・調達段階からの検討 新築工事の廃棄物リサイクルの推進

建設工事において発生する廃棄物の3R(リデュース・リユース・リサイクル)活動を推進しています。

北海道種鶏農場6次化複合施設では、発注者の想いである「自然との共生と地元への貢献」を実現するため、道産材の活用と、設計段階から建物が解体されるまでの建物のライフサイクルにおける廃棄物の徹底的な削減・副産物のリサイクル徹底を目指しました。①BIM\*を駆使した工場でのプレカットによる廃棄物の発生抑制、②木質部分に北海道産のカラマツ・トドマツ材を使用、③コンクリートの粗骨材・砕石材、仕上げ用の石材に地元産を活用、④主要部材の木材を解体時の80%以上のリユース計画、など3Rの中でも優先順位の高い発生抑制や再利用にも注力し、地元産の材料を積極的に採用した取り組みを推進しました。

これらの活動の結果、2020年度3R推進功労者等表彰で国土交通大臣賞を受賞しました。

\*BIM (Building Information Modeling) :コンピュータ上に作成した建築物の3次元デジタルモデル

関連項目:P29 エンジニアリング > 資源循環分野への取り組み



北海道産カラマツを使用した骨組み部

**KPI** 建設副産物リサイクル率(容積比)  
実績:94.9% (目標:93.0%)

詳細はWEBに掲載

- ・事業活動におけるCO<sub>2</sub>削減
  - ・今後の気候変動への対応
- 上記についてはWEBを参照ください。

<https://www.takenaka.co.jp/enviro/objectives/02/>



詳細はWEBに掲載

- ・先端技術開発とイノベーションの推進
  - ・共創活動の推進
- 上記については27~32ページ、WEBを参照ください。

<https://www.takenaka.co.jp/enviro/objectives/03/>



## 技術革新と共創



ロボット化・AI化の推進やデジタルデータの活用など先端技術開発のイノベーションを推進しながら、コミュニティに参画し、ステークホルダーの方々とのパートナーシップを構築しています。

## 働き方・生産性改革

建設業がこれからも持続可能であるために、生産性の高い建設プロセスを追究し、適正な労働条件の担保などによる人材の確保・育成と多様な人々が健やかで働きがいのある職場環境の実現を目指して取り組んでいます。



## 労働時間等の適正な労働条件の担保

### 適切なプロジェクト工期と人員の確保 フロントローディングによる着工後業務の削減

建設業の働き方改革及び担い手確保に向けて、2018年4月に始まった日連連「週休二日実現行動計画」、2020年10月施行の「改正建設業法」(著しく短い工期の禁止)、2024年4月に建設業に適用される「改正労働基準法(長時間労働の是正)」が、長期計画のもと三位一体で進められています。このこと

ついて、当社従業員への周知のみならず、お客様、協力会社をはじめとしたステークホルダーにもご理解いただくためにリーフレットを作成、配布しました。

**KPI** 作業所閉所目標達成率  
実績:4週7閉所28.9% (目標:4週7閉所100%)

## 持続可能で生産性の高い建設プロセスの追求

### 工業化や高効率構工法の設計取り込みによる労務工数の削減 BIM・デジタルファブリケーションによる効率化と手戻りの削減

本町サンケイビルでは、基準階の複雑な外装納まりを設計者、作業所、協力会社とともに施工BIMモデルの重ね合わせによる詳細検討を実施して、施工性の確認を行い、外装取合部での不具合や手戻りが発生しないようにしました。また、オフィスエリアのシステム天井においても協力会社と協業し、

天井下地と設備配管の干渉を無くすことで、労務工数の削減につながりました。



基準階 施工モデル

**KPI** 施工高効率/施工高管理効率

実績:施工高効率1.78万円/人・時間 施工高管理効率9.7万円/人・時間  
(目標:施工高効率1.81万円/人・時間 施工高管理効率11.6万円/人・時間)

## 多様な人々の健やかで働きがいのある環境の実現

### ダイバーシティの促進

当社では女性活躍の促進・職域拡大に取り組んでおり、次期リーダー選抜型研修の実施、けんせつ小町工事チームの活動促進、作業所での女性活躍環境づくりを継続的に行っています。育児と仕事の両立支援においては、2020年に育児・介護のための在宅勤務及び短時間フレックスタイム制度の導入、また外勤を対象にバリエーション勤務の導入、全社員を対象に時間単位年次有給休暇の導入など、フレキシブルな働き方を可能にしました。またシニア人材の活躍を目的として2018年より再雇用制度を見直し、処遇の改善・複数年契約の締結とともに、再雇用の際に自身のキャリアや知識スキルを整理するサポートプログラムを開始しています。



けんせつ小町工事チーム[OMJ(Oyodo Minami Joshi)]

**KPI** 女性管理職比率  
実績:4.5% (目標:4.5%以上)



## 差別とハラスメントの撲滅

### ハラスメントの環境調査・教育啓蒙の実施

当社では、働きやすい職場環境の実現に向けて、ハラスメントなどの不当な扱いを行わないことを会社の方針に掲げハラスメント防止の促進に取り組んでいます。職場の実態を把握するために全従業員を対象に定期的な「職場環境調査」を実施しており、その結果を受けて、特にパワーハラスメントの行為者になり得る優位的立場にある全ライン長を対象にパワーハラスメント防止研修(管理職編)を毎年継続して実施しています。2020年6月は、パワーハラスメントの防止を企業に義務付ける「改正労働施策統合推進法」が施行され、法改正のポイントや

**KPI** 教育実施率

**実績:100%**(目標:100%)

ハラスメントについての正確な知識を習得するために全従業員を対象にeラーニングを実施し、健全な職場環境の維持及び従業員の心身の健康維持に取り組んでいます。



研修風景

## 人材の確保と育成・定着

### 環境変化に応じた若年層社員教育の見直し

当社では、入社後1年間、深江竹友寮(新社員専用寮)で生活しながら複数部門のOJTなどを体験することで、人間としての成長と、当社の伝統的精神、プロフェッショナルとしての知識や心構えを身につける教育を実施しています。2019年には深江竹友寮の建替と新社員教育プログラムの刷新を行い、ハード・ソフト面からの充実を進めています。また、早期育成を実現するために、若年・中堅層社員教育制度を全面的に見直し、2022年から実施する予定にしています。

**KPI** 新卒者離職率(入社3年時点)

**実績:3.40%**(目標:3.5%以下)



新社員企画によるワークショップ制作

### 協力会社と一体となった入職活動と労務賃金見直し 技能労働者の育成・技能継承施策の展開

入職者への建設業の魅力発信を趣旨として「パンフレット」を制作しました。工事の進め方や、専門工事会社ごとの特徴などといった建設業の魅力や保護者の方の疑問点について分かりやすく解説しています。建設業界とはどのようなものなのか、入職してからどのような働き方をするのかについて新規入職者へ伝えるためのツールとして役立てています。また、当社では当社作業所で就労いただいている優良な職長や技術者を認

定し報奨を行う竹中マイスター制度を運用しています。モチベーション向上に寄与することはもとより作業所内で様々な役割を担っていただき、技能労働者の育成や後進への技術の伝承を推進しています。

**KPI** 新規入職技能労働者数

**実績:888人**(目標:720人)

詳細はWEBに掲載

・ワークライフバランス(WLB)推進による多様な働き方の実現<sup>※1</sup>  
・健康経営ガイドライン等を踏まえたPDCAマネジメントの実施  
上記についてはWEBを参照ください。 ※1の詳細はP18に記載しています。

<https://www.takenaka.co.jp/enviro/objectives/04/>



## 着実な生産プロセス

安全衛生方針・品質方針のもと、協力会社と一体となってお客様の期待に応える高品質なものづくりを推進しています。

## 高品質で安全な建築とサービスの提供

### 協力会社を含む設計段階からの品質づくり込み

設計施工一貫のメリットを生かした業務フローを「品質保証体系」として標準化(ISO9001認証取得)しており、設計段階から生産部門や主要協力会社が品質確保のためのつくり込みに参画しています。

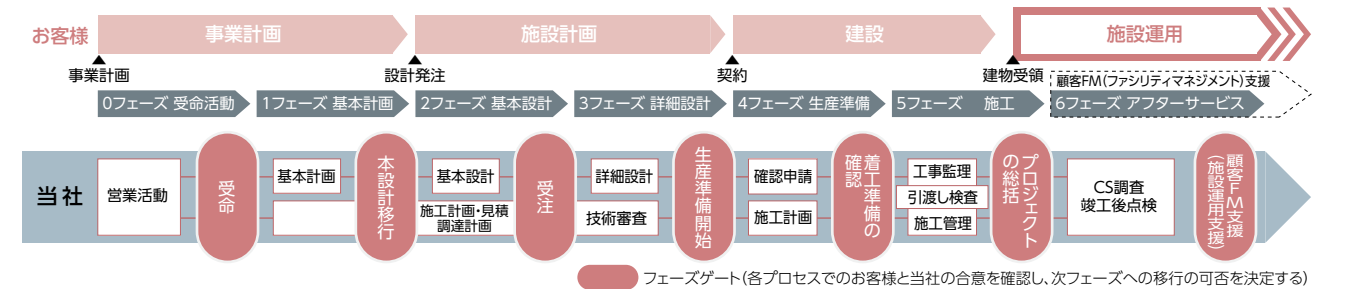
加須物流センターの作業所では、マットスラブ配筋が始まる2か月前に施工3DBIMモデルを完成させ、そのモデルを使って、設計者、監理者、作業所、協力会社とで配筋検査を実施し、配筋前に全ての納まりの事前確認まで完了させました。実際の現場の配筋検査では納まりの指摘事項はなく、高品質

な配筋工事を実施することができ、生産性の向上にもつながりました。また、柱PC梁S構造を採用し、建て方を工夫することで、1.通常必要な仮設材(トピック、コラム、水平ネット)が不要となり、2.建て方後の柱周りの後工事の手間を低減させ、3.屋根先行後に全天候でのコンクリート打設が可能となるメリットが得られました。

**KPI** 重大な品質問題発生件数

**実績:1件**(目標:0件)

品質保証体系図



## 公衆災害や労働災害のない作業所の実現

### 安全先取り計画の推進/多様化する作業員の知識・意識の向上

当社では、年初に定める全社安全衛生管理計画書により、全店共通で安全活動を推進しています。特に重篤な災害につながる墜落・転落災害については、危険作業事前打合せを必ず実施し、作業計画及びリスクアセスメントを実施した作業手順書を事前に確認することにより、安全先取り計画を推進しています。若手社員については、竹中技術実務研修センター「想」において、目で見て、音を聞いて、手で触ってみるなど五感で体験する体感型に特化した安全研修を実施し、災害発生を未然に防止できるように、安全の感性を磨き、高めています。また、東京本店では、2016年に開設した体感訓練センター(Safety Active Training-Center 通称、SAT-C)にて、外国人技能実習生を対象とした教育を行っており、多様化する作業員に対する知識及び意識を向上させることにより公衆災害や労働災害のない作業所の実現に取り組んでいます。

**KPI** 重大な公衆災害・労働災害発生件数

**実績:1件**(目標:0件)



外国人技能実習生による体感訓練

詳細はWEBに掲載

・持続可能なサプライチェーンの実現  
上記についてはWEBを参照ください。

<https://www.takenaka.co.jp/enviro/objectives/05/>





## 健全な組織基盤

当社は企業理念のもと「品質経営」を実践し、お客様の満足や社会からの信頼を得て、企業としての社会的価値を高めていくとともに、社会的責任を果たしていきます。

### 企業倫理中央委員会・コンプライアンス/ 危機管理委員会での統制・管理

## 信頼あるガバナンスの構築

内部統制基本方針に基づき、コンプライアンスを含むCSR活動の推進やリスク事象発生時の危機回避・軽減及び平時における危機管理活動の推進など、企業倫理中央委員会を設置しグループ全体の体制整備や啓発・訓練を実施しています。また、グループ会社についても、当社に準拠した企業行動規範に基づき、管理体制を整備し、この行動規範を実践することを指導しています。

企業行動規範	
第1条	お客様満足とまちづくりを通じた持続可能な社会の実現
第2条	法令及び社会規範の遵守
第3条	情報の開示及び保護
第4条	人権の尊重
第5条	働きやすい職場環境の実現
第6条	地球環境への貢献
第7条	社会への貢献
第8条	危機管理の徹底
第9条	国際規範の尊重と各国・地域への貢献
第10条	実施体制の整備と違反への対応

## コンプライアンスの徹底

### ● コンプライアンス体制の構築

コンプライアンスを徹底・推進させる体制として、企業倫理中央委員会の下にコンプライアンス委員会を設置し、個別事案の対応状況を確認し再発防止策を指示するほか、重要リスクを特定し活動方針を定め施策の実施状況を確認しています。更に支店委員会を設置し、方針及び施策の展開を図っています。また、当社内、グループ会社、取引先からの相談・通報を受け付ける窓口を複数設置し活用するとともに、一般からの問い合わせなどを受け付ける窓口も設け、自浄作用の実現に努めています。

### ● 啓発活動の継続実施

具体的な教育・啓発活動には、各種階層別研修のほか、社内外の身近な話題を取り上げる「CSR・コンプライアンスニュース」を2009年から原則毎月、全従業員に配信しています。更に、毎年11月に実施している「竹中グループCSR・コンプライアンス月間」では、グループメッセージの発信、社外講師による「CSR役員セミナー」、全員参加の職場ミーティング、各種相談・通報体制の周知、セルフモニタリング形式のeラーニングによるクイズなどをグループ全体で実施しているほか、「建設業取引適正化推進月間」に伴うプログラムなど、各社独自に実施しています。こうした活動を繰り返し行うことにより、コンプライアンスに関する知識・意識の深化と向上を図っています。



CSR・コンプライアンスニュース



CSR・コンプライアンスミーティング



## リスクマネジメントの確立

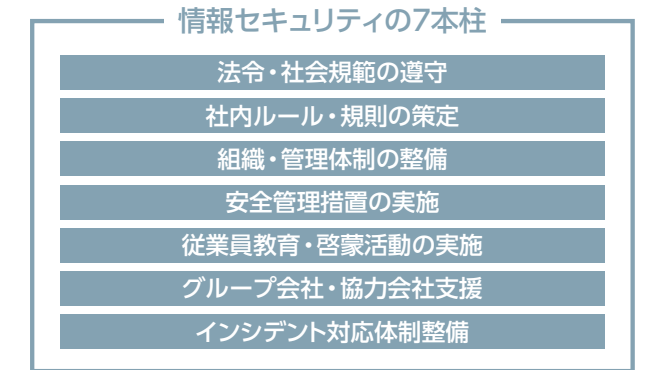
当社は市民生活や企業活動に脅威を与える反社会的勢力の行動やテロ、サイバー攻撃、自然災害、その他事故などに備え、企業倫理中央委員会の下に設置した危機管理委員会を中心に組織的な危機管理体制を整備しています。

### ● 情報セキュリティの強化

当社は、情報セキュリティポリシー（情報セキュリティの7本柱）を制定し、お客様の情報資産を守るための情報セキュリティ活動を推進しています。特に最近のサイバー攻撃の脅威拡大を受け、社外からの攻撃や不正侵入を早期に検知して被害を最小化できる仕組みを導入するとともに、「TAKENAKA-SIRT」によるインシデント対応体制を整備しています。また、海外も含めた竹中グループの全従業員の教育・啓蒙活動に加えて、サプライチェーンのセキュリティ強化のため、協力会社への教育・啓蒙にも力を入れています。

### ● 災害時対応体制の整備・強化

当社は、巨大地震の発生を想定し、災害対策本部を設置して、従業員・家族の安否確認、各事業所・稼働作業所・竣工建物の被災状況確認・復旧などを全社的に行うBCPを策定しています。毎年、初期対応の訓練として災害シミュレーション訓練、地域性を踏まえた震災実動訓練、全社連携体制を確認する合同対策会議訓練を、グループ会社従業員も参加し実施しています。



また、近年、各地で台風や大雨による被害が多発していることを鑑み、風水害時における実施事項をマニュアル化し、有事に備えています。

## 人権尊重の取り組みの推進

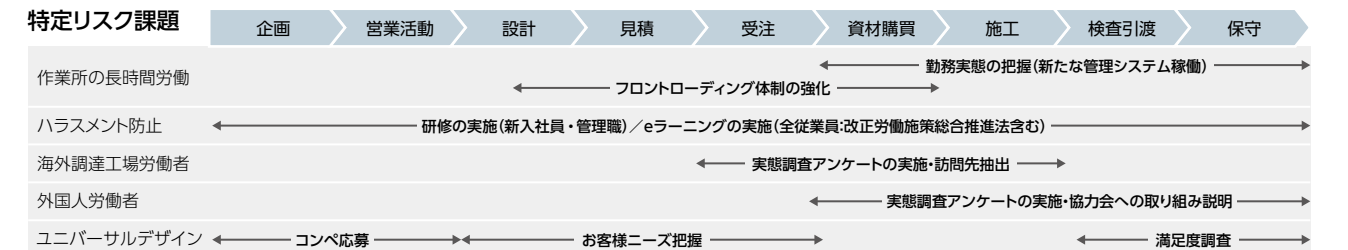
2018年9月1日に人権方針を制定し、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき、当社の「企業理念」及び「企業行動規範」に従って、事業活動において人権尊重に向けた取り組みを推進しています。

2020年は5つのハイリスク課題に引き続き取り組みました。「長時間労働」では更なる生産性向上と対話を通じた実態把握などに注力しました。改正建設業法の施行に対しては従業員に周知徹底し、お客様、お取引先とともに工期の適正化に努めています。「ハラスメント」では改正労働施策総合推進法の施行に合わせ、全従業員を対象としたeラーニングを実施し、法改正の周知を図りました。また「人権週間」を機会に行政の活動、

啓発資料・動画、及び当社取り組みを全従業員へ周知理解を深めました。同年12月には2019年に続きロイドレジスタージャパン株式会社の冨田秀実氏を迎え活動レビューを実施し、ステークホルダーとの対話や最新のローカルリスクなど様々な視点から示唆をいただき、今後の施策に活かしていきます。



人権活動レビューの実施



### KPI 重大なコンプライアンス事案の発生数

実績:0件 (目標:0件)

詳細はWEBに掲載

・情報開示や対話推進による組織の透明性向上  
上記についてはWEBを参照ください。

<https://www.takenaka.co.jp/enviro/objectives/06/>





## 社会貢献活動の推進

活動方針「飛び出そう、地域社会へ」をスローガンに、地域の様々なステークホルダーと連携し、地域貢献活動を行うとともに、社会起点の感性をもつ社会課題解決の担い手を育み、次世代を担う人材の育成と地域の発展に努めてまいります。

2020年はコロナ禍の中、安全対策や様々な工夫を行い取り組みました。

### ● 地域教育活動への支援

山形県米沢市新庁舎建設工事の作業所で、TAKENAKAキッズプログラム「たてもの探検隊」を開催しました。「たてもの探検隊」は、当社が手掛ける建物に子どもたちを招き、建物の特徴を見て触れて感じてもらう体験型の企画です。当日は小学3・4年生の子どもたちと保護者を合わせ70名が参加し、建物の「免震技術」について、クイズや模型、免震体験車といった様々な免震体験を通じて、地震から建物を守る最新技術を学んでもらい、建築への理解や興味を深めてもらいました。



免震クイズに答える子どもたち

模型体験の様子

### ● 地域との交流と貢献

2020年で7回目を迎えた日本最大級の建築イベント「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪」（通称：イケフェス大阪）が初のパナール開催となり、当社も参加し、若手社員有志が企画した建築の仕事を知っていただく映像や、360°カメラ技術を使い当社大阪本店を自由に散策できる見学会をオンライン上で発信し、建築の魅力を広く伝えました。

### ● 重要文化財「聴竹居」の保存と公開

この建物は京都府大山崎町に遺る昭和初期を代表する木造モダニズム住宅です。当社設計組織の黎明期に在籍後、京都大学教授となった故・藤井厚二が、実験住宅として手掛けた自邸です。コロナ禍の中、閉館し3棟（本屋・閑室・茶室）の保存修理工事とともに現地に遺されていた藤井アーカイブスの整理が粛々と進められ、2021年春からは保存修理工事を終えた本屋の一般公開を再開する予定です（2019年メセナ大賞受賞）。



甍った竣工当時の本屋の外観



聴竹居設計時のスケッチブック



藤井がデザインし制作させた電気ストーブ・暖房具(茶釜兼用)

### ● 公益財団法人への活動支援

当社は、3つの公益財団法人の活動支援を通じて、「伝統技術の現代・未来への伝承」（竹中大工道具館）、「現代の建築文化の社会への発信」（ギャラリーエークウッド）、「未来の社会を担う人材の育成」（竹中育英会）を柱とした、過去・現在・未来をつなぐメセナ事業、育英事業を展開しています。

2020年1月から3月には、創立120周年記念事業として当社創立の地「神戸」にある神戸市立博物館にて「建築と社会の年代記－竹中工務店400年の歩み－」と題した展覧会が開催され、当社は3つの公益財団法人とともに特別協力し建築文化の発信に貢献しました。



「建築と社会の年代記-竹中工務店400年の歩み」展

### ● 公益財団法人竹中育英会

1961年に設立した竹中育英会は、創設者であり初代理事長である竹中藤右衛門の「感恩報謝」の理念のもと、青少年の育成と教育の深耕を図ることを趣旨に奨学金給付などの事業を続けています。返済不要の奨学金給付などの教育研究助成事業に加え、2012年からは展示会開催を主とする文化芸術振興事業を始め、育英会の活動の輪を広げています。

### ● 公益財団法人竹中大工道具館

1984年、神戸中山手に「大工道具を収集・保存し、研究や展示を通じて工匠の精神や道具鍛冶の心を後世に伝えていく」ために開設されました。2014年からは新神戸駅近くに移転し、木の香りにあふれた「和」の建築の博物館としてスタートし、日本の伝統文化に関心がある外国人を含め多くの見学者が訪れています。教育支援や文化の普及にも力を入れており、出張授業、大学からの実習生の受け入れなどを行っています。

### ● 公益財団法人ギャラリーエークウッド

2020年に開館15年目を迎えたギャラリーエークウッドは、「建築・愉しむ」を活動の基本とし「建築」を通して社会を見つめることをコンセプトにした企画展を開催しています。建築文化へ繋がる様々な扉を通して、また、楽しみながら街づくりや環境問題を考える契機となり、自然や環境、暮らしや生き方をなどの話題を提供し、来場者に新たな発見や、探求していただける場を用意しています。

## コーポレート・ガバナンス

### 組織統治 — 経営の質の向上と、迅速で的確な意思決定を行うガバナンスの充実

#### コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社では、「企業活動全体の質」の改善向上活動に取り組み、広くお客様や社会から信頼を得て、社会的価値を高めるという考えのもと、コーポレート・ガバナンス体制を構築し、その適正な運営に取り組んでいます。

#### 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

##### ● 取締役会・執行役員制度

経営に関する意思決定及び業務執行の監督機関として、取締役会を毎月1回、その他必要に応じて開催しています。また、経営意思決定の迅速化と事業執行機能、監督機能の強化を図るため、2010年より執行役員制度を導入しています。執行役員は、取締役会が決定した経営方針に基づく業務執行権限を委譲され、取締役の監督のもとで経営方針に従い、業務執行にあっています。

##### ● 監査役会

社外監査役2名を含む4名で組織されており、監査役は取締役会に出席するなど、取締役の職務執行を監査しています。

##### ● 企業倫理中央委員会

社会規範及び法令遵守の推進をより一層図るため、社長を委員長とする「企業倫理中央委員会」を設けています。これまで活動してきた「コンプライアンス委員会」「危機管理委員会」とあわせて一体的な活動により、コーポレート・ガバナンス体制を推進しています。

##### ● コンプライアンス委員会

コンプライアンス分担役員を委員長として、コンプライアンスに関する教育啓蒙と再発防止策の指導徹底を行います。

##### ● 危機管理委員会

代表取締役を委員長として、自然災害をはじめとするリスク事象における迅速・的確かつ誠実な対応を行うとともに、平時における危機管理活動を推進しています。

##### ● 監査室

経営活動に関する自己統制手段である内部監査組織として監査室を設置し、会社の業務、会計及び財産の実態について、その正確性・妥当性の確認を行っています。

##### ● CSR推進部

本所にCSR推進部を設置し、コンプライアンス教育を推進しています。また竹中グループ全体にわたり各事業所にCSR・コンプライアンス推進責任者、CSR・コンプライアンスリーダーを任命し、教育・啓蒙の推進役としています。

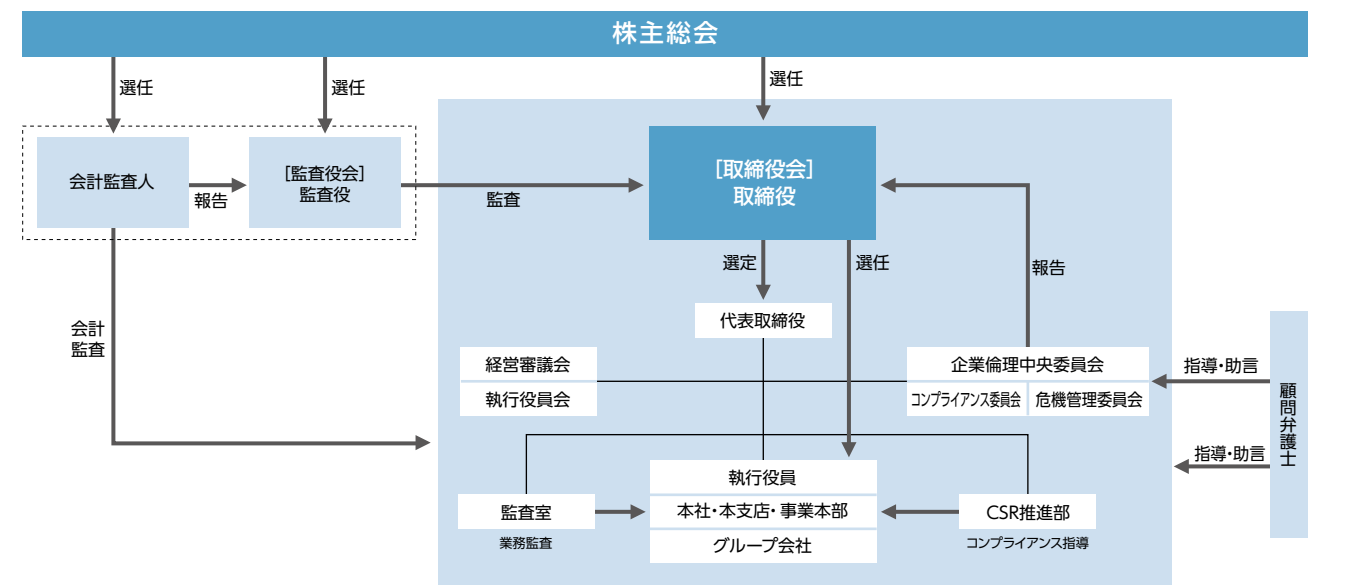
##### ● 会計監査人

会社法及び金融商品取引法の会計監査について、独立監査人としての公正・不偏的立場から監査を受けています。

##### ● 顧問弁護士

複数の法律事務所と顧問契約を締結し、必要に応じて指導・助言を受けています。

#### コーポレート・ガバナンス体制図







株式会社レスポンスアビリティ  
代表取締役  
**足立 直樹 氏**

東京大学理学部、同大学院で生態学を専攻、博士（理学）。国立環境研究所、マレーシア森林研究所に勤務した後に独立し、持続可能なサプライチェーンの構築や企業価値を高めるサステナブル経営戦略とブランディングを企業に指導。一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB) 理事・事務局長、サステナブル・ブランド ジャパン サステナビリティ・プロデューサー、日本野鳥の会 顧問などを兼務。生物多様条約 IAGや省庁の委員も多く務める。著書に「生物多様性経営：持続可能な資源戦略」ほか。

今回もっとも目を引いたのは、2050年にCO<sub>2</sub>排出量を100%削減すると、これまでの目標を大幅に前倒したことです。さらっと書かれていますが、設計・施工や自社におけるCO<sub>2</sub>排出量だけであればともかく、建物の運用30年間も含めてのCO<sub>2</sub>排出量をゼロにするのですから大変なことです。建物の断熱性やエネルギー効率を極限まで高めることはもちろん、建物で使用するエネルギーを基本的に再生可能エネルギーにすることを施主に求めることも必要でしょうし、社会全体で再生可能エネルギーへのシフトを進めなければなりません。そのために既に再生可能エネルギー事業にも取り組んだり、エンジニアリング部門も強化し、高度な建物エネルギーマネジメントシステムを開発するなどしているとのこと、本気度の高さを感じました。このような高い目標を掲げることは、社員の方にとって大きな励みになるでしょうし、建設業界全体に大きな刺激になることと思います。

それ以外の分野でも、エンジニアリングの活用が印象的でした。建物の運用時はもちろん、建設プロセスにおいても今後より高度な技術が望まれるでしょうし、日本では働き手が減るといった問題もあります。こうした課題を解決するために自社で技術開発までしていることに驚きました。これからは建築業の枠を超えて「まちづくり総合エンジニアリング企業」になるのだという思いが既に実践されていると感じました。そのまちづくりの中で何が必要かと考えたとき、特に日本においては老朽化したインフラのメンテナンスやリニューアルという問題があり、更地に大きな建物を造ればよい時代ではなくなって来ました。特に今回のコロナ禍で社会の変化は加速し、大都市に集中するのではなく、より地方に分散するという生き方や社会が現実のものとなりつつあります。建物やまちづくりにおいても、これまでとは異なる方向性が必要とされるはずだと感じました。

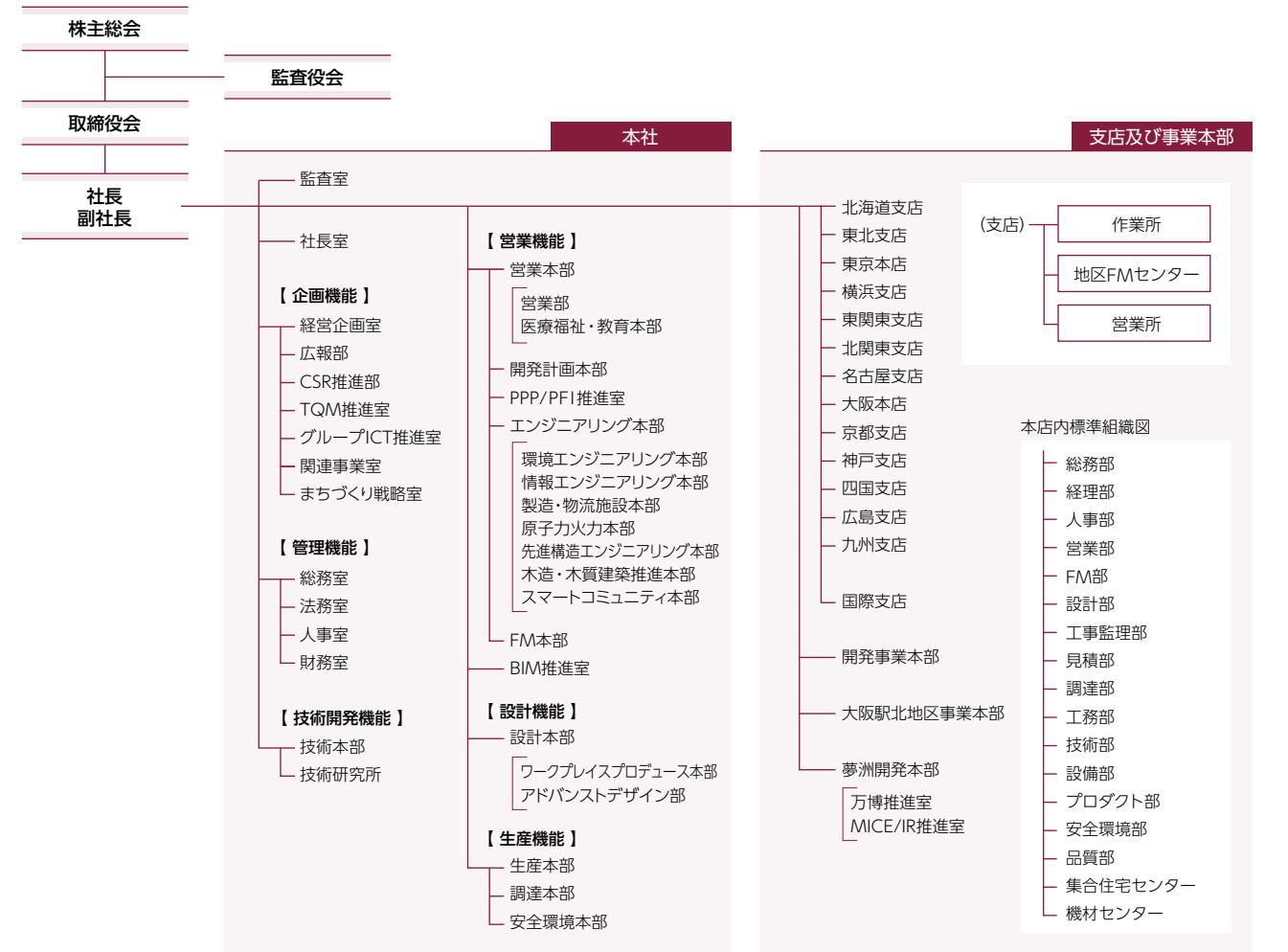
その中で私が注目したのは「MACHIInnovation®（マチノベーション）」の推進や「魅力再生®」による歴史的な建造物の建替・改築です。前者は建設会社のこれまでの事業領域から逸脱しますし、後者は費用や効率の点から、日本ではこれまであまり注目されませんでした。しかし、これからの価値はそういうところから生まれて来るはずで、それを見抜き、技術面だけでなく運用にも参画しているところが素晴らしいと感じました。

技術で新しい価値を作るという意味では、表紙のイラストにもある高層木造建築などの「都市木造」にも期待しています。木のぬくもりが生活の質を高めるだけでなく、日本の森林活用につながり、生物多様性の保全にも貢献できるでしょう。一方で、生物多様性は気候危機と並んで世界的には二大環境問題とされており、しかも建設業は、使用する原材料と土地の開発・改変における影響が大きいことから、より積極的な取り組みが期待されています。たとえば、コンクリート型枠や内外装の材料として熱帯林が破壊される問題です。これまでは施主や協力会社の考え次第であり、建設会社が管理することは難しいとされてきましたが、それでは問題は解決しません。ステークホルダーとの対話を深めてサステナブル社会を作ることを目指す竹中にこそ、この問題に積極的に取り組まれることを期待しています。また、まちづくりにおいても、生物多様性への配慮に留まらず、その回復や再生、さらには生態系の仕組みに習うことでよりサステナブルなグリーンインフラの整備など、建設業としてのビジネスチャンスも多くあります。目の前の収益だけに囚われず、長期的な視野で行動できるのは非上場企業の大きな強みです。これらの分野においても、日本はもちろん世界をリードし、建設業を超越した、まちづくりと社会づくりのリーダーになっていただきたいと思っています。

<b>社 名</b>	株式会社竹中工務店
<b>本社所在地</b>	大阪市中央区本町4-1-13
<b>資 本 金</b>	500億円(2021年3月現在)
<b>建設業許可番号</b>	国土交通大臣許可 (特-1、般-1)第2744号
<b>従 業 員 数</b>	7,741名(グループ全体13,171名) (2021年1月現在)
<b>グループ会社</b>	子会社55社、関連会社12社、その他関係会社1社
<b>資 格 者 数</b>	1級建築士 …………… 2,407 1級建築施工管理技士 …………… 2,295 技術士…………… 191 博士…………… 119 (2021年1月現在)

<b>事 業 内 容</b>	1.建築工事及び土木工事に関する請負、設計及び監理 2.建設工事、地域開発、都市開発、海洋開発、宇宙開発、エネルギー供給及び環境整備等のプロジェクトに関する調査、研究、測量、企画、評価、診断等のエンジニアリング及びマネジメント 3.土地の造成並びに住宅の建設 4.不動産の売買、賃貸、仲介、斡旋、保守、管理及び鑑定並びに不動産投資に関するマネジメント 他
<b>取 引 銀 行</b>	三菱UFJ銀行、みずほ銀行、三井住友銀行、りそな銀行、三菱UFJ信託銀行、三井住友信託銀行、農林中央金庫 他

組 織 図 (2021年4月1日付)





損益計算書・貸借対照表(連結)

(百万円)

	第79期 2016	第80期 2017	第81期 2018	第82期 2019	第83期 2020
受注高	1,291,682	1,391,442	1,397,818	1,419,121	1,238,508
売上高	1,216,570	1,295,951	1,353,627	1,352,064	1,237,758
営業利益	91,367	107,988	85,063	80,235	39,788
営業利益率(%)	7.5	8.3	6.3	5.9	3.2
経常利益	93,572	115,304	93,977	89,502	46,954
親会社株主に帰属する 当期純利益	61,432	75,762	63,638	68,918	30,528
純資産	566,470	652,033	671,189	762,642	751,745
総資産	1,318,055	1,450,191	1,468,850	1,519,771	1,442,958

その他の財務データ(連結)

(百万円)

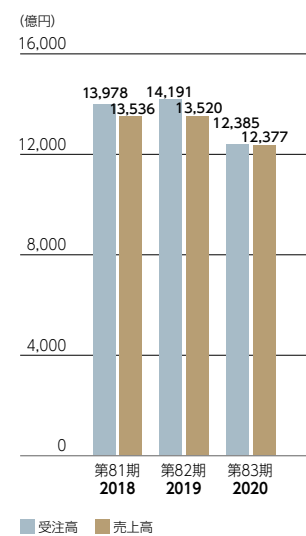
	第79期 2016	第80期 2017	第81期 2018	第82期 2019	第83期 2020
営業活動によるキャッシュフロー	87,883	88,476	107,719	△45,512	△7,863
投資活動によるキャッシュフロー	△48,695	△42,847	△40,772	△15,448	△33,051
財務活動によるキャッシュフロー	△147	△14,235	△32,662	△14,509	23,054
研究開発費(億円)	70	77	84	93	93
設備投資(億円)	623	565	270	417	432
自己資本利益率(ROE)(%)	11.4	12.6	9.7	9.7	4.1

事業別売上高(連結)

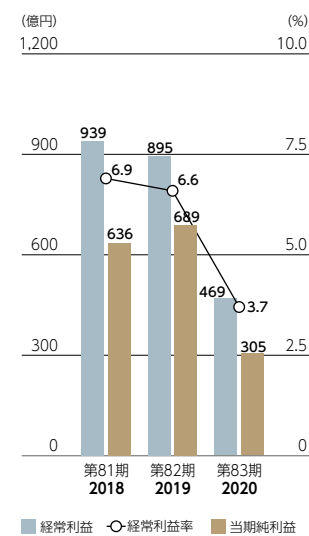
(百万円)

	第79期 2016	第80期 2017	第81期 2018	第82期 2019	第83期 2020
建設事業	1,104,999	1,193,475	1,241,868	1,241,923	1,146,184
開発事業	59,868	49,653	59,045	54,448	35,571
その他	51,703	52,822	52,713	55,692	56,002

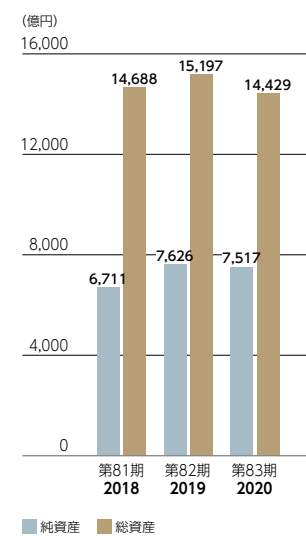
受注高/売上高(連結)



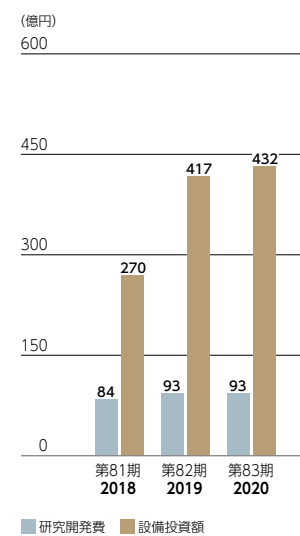
経常利益・経常利益率/  
親会社株主に帰属する当期純利益(連結)



純資産/総資産(連結)



研究開発費/設備投資額(連結)



地域別売上高(連結)

(百万円)

	第79期 2016	第80期 2017	第81期 2018	第82期 2019	第83期 2020
日本	1,043,880	1,128,429	1,180,889	1,198,630	1,117,451
アジア	117,939	91,847	87,339	74,534	64,605
欧州	26,114	46,353	52,678	48,315	44,605
北米	28,636	29,320	32,719	30,584	11,095
その他	—	—	—	—	—

非財務データ(単体)

	第79期 2016	第80期 2017	第81期 2018	第82期 2019	第83期 2020
従業員数(人) (連結)	7,307 (12,592)	7,400 (12,982)	7,500 (13,042)	7,630 (13,355)	7,741 (13,171)
従業員平均年齢(歳)	44.3	44.0	44.0	44.0	44.0
平均勤続年数(年)	19.6	19.2	19.1	17.1	19.1
女性役付職人数(人)	86	100	121	131	146
度数率 (休業4日以上災害)*1	0.41	0.54	0.56	0.54	0.38
施工時CO2排出量 原単位(t/億円)*2	10.5	10.0	10.4	10.3	9.9
建設副産物リサイクル率 (容量%)*3	95.7	94.7	91.6	92.0	94.9
CASBEE S・Aランク プロジェクト件数比率(%)*4	67.1	77.3	85.7	89.2	91.7

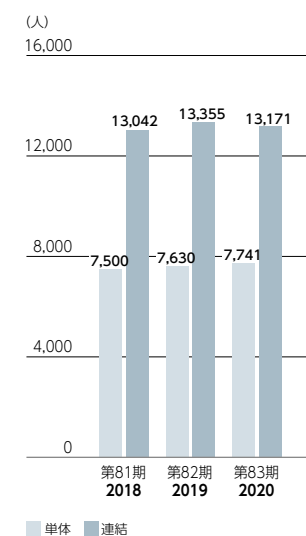
\*1 100万延労働時間あたりの休業4日以上労働災害による死傷者数の割合。(1人親方等を含む)

\*2 施工高あたり。

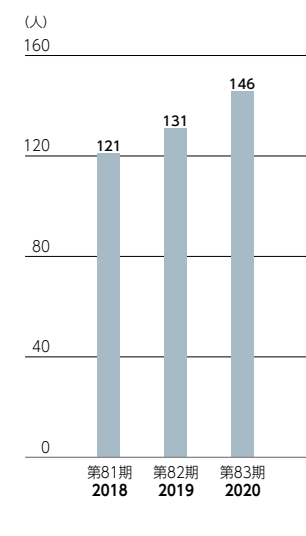
\*3 建設汚泥、特別管理廃棄物は含まない。

\*4 Sランク及びAランクプロジェクトの合計。対象は当社設計プロジェクト。

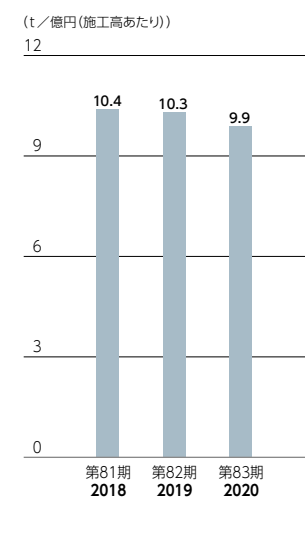
従業員数(単体・連結)



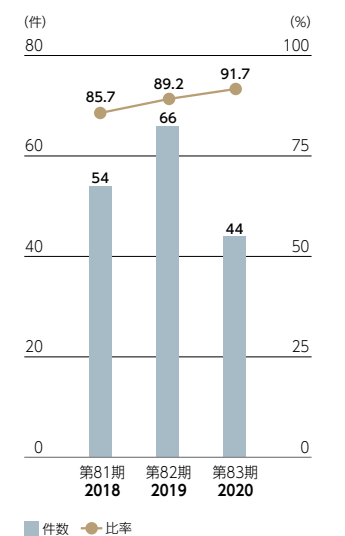
女性役付職人数(単体)



施工時CO2排出量原単位(単体)



CASBEE S・Aランク  
PJ件数/比率(単体)





想いをかたちに 未来へつなぐ



## 株式会社 竹中工務店

本 社	大阪市中央区本町4-1-13	〒541-0053	06-6252-1201
北海道支店	札幌市中央区大通西4-1	〒060-0042	011-261-2261
東北支店	仙台市青葉区国分町3-4-33	〒980-0803	022-262-1711
東京本店	東京都江東区新砂1-1-1	〒136-0075	03-6810-5000
横浜支店	横浜市西区花咲町6-145	〒220-0022	045-321-1261
東関東支店	千葉市中央区中央港1-16-1	〒260-0024	043-242-0525
北関東支店	さいたま市大宮区桜木町1-9-6	〒330-0854	048-647-4471
名古屋支店	名古屋市中区錦2-2-13	〒460-8633	052-211-2111
大阪本店	大阪市中央区本町4-1-13	〒541-0053	06-6252-1201
京都支店	京都市中京区壬生賀陽御所町3-1	〒604-8811	075-801-2131
神戸支店	神戸市中央区磯上通7-1-8	〒651-0086	078-265-3300
四国支店	高松市西内町12-11	〒760-0022	087-851-1175
広島支店	広島市中区橋本町10-10	〒730-0015	082-212-0111
九州支店	福岡市中央区天神4-2-20	〒810-0001	092-711-1211
国際支店	東京都江東区新砂1-1-1	〒136-0075	03-6810-5000
開発事業本部	東京都江東区南砂2-5-14	〒136-0076	03-6810-5000
竹中技術研究所	千葉県印西市大塚1-5-1	〒270-1395	0476-47-1700

<https://www.takenaka.co.jp>



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。